

## 夢づくり政策評価（案）について

「新おかやま夢づくりプラン」の初年度である19年度の実績について、各戦略プログラムごとにその達成レベルを5段階に分けて評価（案）を作成しました。

各プログラムの評価は、夢づくり協働指標の実績を基本にして、重点施策・事業の成果などを加味しながら、プログラム推進目標の進捗状況を総合的に判断して行っています。

なお、評価対象とプログラムの達成レベルは次のとおりです。

### 記

#### 1 評価対象

- 「教育と人づくりの岡山」の創造 (10プログラム)
- 「安全・安心の岡山」の創造 (10プログラム)
- 「産業と交流の岡山」の創造 (10プログラム)

#### 2 プログラムの達成レベル（5段階）

- レベル5 …… 目標水準を大きく上回った
- レベル4 …… 目標水準を上回った
- レベル3 …… おおむね目標水準
- レベル2 …… 目標水準を下回った
- レベル1 …… 目標水準を大きく下回った

# 夢づくり政策評価シート一覧

平成20年11月

## 夢づくり政策評価一覧表

基本戦略	戦略プログラム		プログラム 達成レベル	主管部局	頁
「教育と人づくりの岡山」の創造	1	子育て支援プログラム	4	保健福祉部	1
	2	子ども教育プログラム	3	教育庁	3
	3	青少年プログラム	3	生活環境部	5
	4	生涯学習プログラム	4	教育庁	7
	5	人権プログラム	3	産業労働部	9
	6	男女共同参画プログラム	3	生活環境部	11
	7	文化プログラム	3	生活環境部	13
	8	国民文化祭プログラム	4	生活環境部	15
	9	スポーツプログラム	4	生活環境部	17
	10	パートナーシッププログラム	4	生活環境部	19
「安全・安心の岡山」の創造	1	安全・安心まちづくりプログラム	4	生活環境部	21
	2	暮らしと交通の安全プログラム	4	警察本部	23
	3	災害対策・危機管理プログラム	3	総務部	25
	4	自主防災プログラム	3	総務部	27
	5	健康・医療プログラム	4	保健福祉部	29
	6	福祉プログラム	3	保健福祉部	31
	7	ユニバーサルデザインプログラム	3	企画振興部	33
	8	水と緑プログラム	3	生活環境部	35
	9	地球環境プログラム	3	生活環境部	37
	10	都市・農村景観プログラム	3	生活環境部	39
「産業と交流の岡山」の創造	1	地域産業プログラム	4	産業労働部	41
	2	新産業プログラム	3	産業労働部	43
	3	戦略的企業立地プログラム	4	産業労働部	45
	4	観光プログラム	3	産業労働部	47
	5	農林水産業プログラム	4	農林水産部	49
	6	就労プログラム	3	産業労働部	51
	7	交通基盤プログラム	3	土木部	53
	8	ユビキタス実感プログラム	4	企画振興部	55
	9	まち・むら活性化プログラム	3	企画振興部	57
	10	国際化プログラム	4	企画振興部	59

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	101
担当部局	保健福祉部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	子育て支援プログラム
プログラムの概要	少子化の流れを変え、次代を担う子どもたちが、心身ともに健やかに生まれ育ち、家庭や地域で心豊かに生活できるよう、母子保健・医療の充実や子育て支援の推進など、安心して子どもを生み育てる環境づくりに取り組みます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
地域子育て支援拠点数	箇所	73	110	86						
(指標の説明)子育て中の親子が集まって情報交換や交流をしたり育児相談ができる地域の子育て支援拠点の数を表すもの										
乳児保育実施箇所数	箇所	274	310	292						
(指標の説明)全保育所のうち、乳児を受け入れることができる保育所数を表すもの										
延長保育実施箇所数	箇所	278	310	278						
(指標の説明)開所時間を延長し、保護者の就労時間、通勤時間など実状に応じた延長保育を実施している保育所数を表すもの										
放課後児童クラブ設置数	クラブ	289	330	315						
(指標の説明)児童館、児童センターや保育所や学校の空き教室等地域住民に最も身近な社会資源を利用して、昼間保護者のいない小学校低学年児童に対し、育成・指導・遊びによる発達助長などのサービスを行う児童クラブの設置数を表すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 子どもが健やかに生まれ育つ社会全体の気運の醸成

子育て家庭を応援する「ももっこカード」(協賛店舗等での料金割引サービスなど)の普及促進、県内経済六団体と行政による仕事と育児が両立できる環境整備などの取組を盛り込んだ「おかやまの子育て応援共同宣言」、それに引き続く「おかやま子育て応援宣言企業」の登録制度の創設など、社会全体で子育て家庭を応援する気運の醸成に取り組んだ。

#### 〈協働の成果〉

地域の商店や企業・事業所、市町村との連携により、「ももっこカード」協賛店舗や子育て家庭を支援する企業・事業所が増加した。

#### (参考数値)

ももっこカード 協賛店舗数	H18	H19	増減
	1,221	1,333	112
おかやま子育て 応援宣言企業 登録数	H18	H19	増減
	-	50	50



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

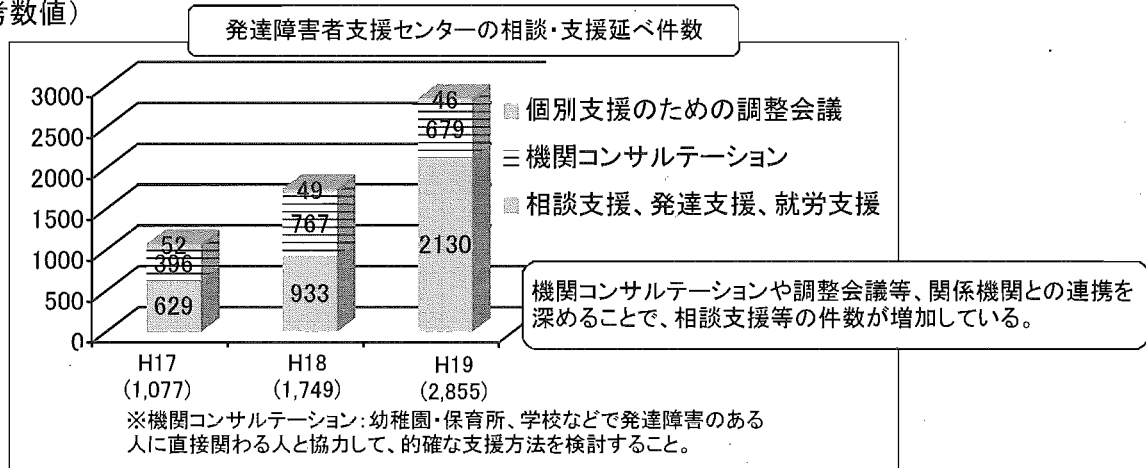
#### 障害児支援の充実

在宅の自閉症等の特有な発達障害を有する障害児(者)とその家族が安心して暮らせるよう「発達障害者支援センター」において相談・療育支援等を実施した。また、早期発見や相談体制支援の充実を図るため、地域の小児医療等に従事する医師や乳幼児健康診査にあたる医師に対する研修を実施した。(研修参加医師:168人)

#### 〈協働の成果〉

個別の相談支援だけでなく、関係施設や教育、保健、福祉など関係機関の連携により、地域における支援体制づくりが進んだ。

#### (参考数値)



### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○周産期医療体制の強化

ハイリスク妊産婦や低出生体重児への対応など救急患者等をより適切、安全に受け入れ、妊産婦の不安を軽減することが求められており、引き続き周産期医療体制の強化を図るなど、安全で安心な妊娠・出産ができる環境づくりを推進する。

#### ○発達障害児の支援体制の整備

家庭から幼稚園・保育所、幼稚園・保育所から小学校など切れ目のない支援体制の整備が課題となっており、保健、医療、福祉、教育関係者等が連携した継続的な支援体制づくりを推進する。

### 5 総合評価

地域や企業・事業所、NPOやボランティア、関係団体、学校や市町村等との連携により、子どもが健やかに生まれ育つ環境の整備を総合的に推進しているが、今後も引き続き、社会全体で子育てを支援する気運のさらなる広がりを図るとともに、改正児童虐待防止法への対応、放課後児童対策をはじめとする社会環境づくりなど、関係者との連携をより深めていく必要がある。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	102
担当部局	教育庁

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	子ども教育プログラム
プログラムの概要	子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた個性や能力の伸長、優れた教員の育成に努めるとともに、市町村や学校の自主性・自立性を高めつつ、創意工夫を生かした特色ある教育活動に取り組みます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
学校生活に満足している生徒の割合	%	79	80	79						
(指標の説明)学校生活に満足している高校生の増加を目指すもの										
中高一貫教育・総合学科等の新しい形態の学校数	校	24	29	27						
(指標の説明)学校教育における子どもの選択肢の拡大を目指すもの										
県立学校の授業等を支援している外部人材の数	人	1,548	1,650	1,777						
(指標の説明)地域の人材を活用して、学校の授業等の支援の拡大を目指すもの										
特別支援学校※教諭の専門免許取得率	%	52.1	60	66.6						
(指標の説明)特別支援学校教諭の該当領域の教員免許の取得率向上により、専門性の高い教育を目指すもの ※特別支援学校は、盲・聾・養護学校から名称変更されたもの(H19.4～)										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ◆学校支援と教職員の養成・資質向上

優れた教職員の育成を行い、もって県下の学校教育の振興を総合的に図るため、県教育センターと県情報教育センターを統合し、発展拡充した「岡山県総合教育センター」を整備した。

- 教職員研修
  - ・教職員の資質の向上を図るための実践的で魅力ある研修講座の開催
- 教育に関する調査研究や支援
  - ・教育現場で生きる調査研究
  - ・各学校への出前講座の実施や校内支援体制整備に関する助言
  - ・教職員の自己啓発やスキルアップのための支援
- 教育情報の収集・提供
  - ・教育に関する資料を幅広く収集し、ニーズに適合し、問題解決に役立つ教育情報の提供
- 教育相談の実施
  - ・学習の遅れ・つまづき、進路、不登校、いじめ、発達障害などの教育上の諸課題について、本人・保護者・教職員に対して面接相談や電話相談を実施

専門性と使命感あふれる魅力的な教職員の育成

活力ある学校をつくるための支援

生きる力を育てる教育相談

確かな学力とたくましく心豊かなおこやまっ子の育成

#### <協働の成果>

外部講師や吉備高原都市内の施設を活用した教職員研修の開催、医師による教育相談の実施など、外部人材や地域資源を積極的に活用した。また、民間のノウハウを導入した施設管理(PFI方式の導入)を行った。

(参考数値)

総合教育センター研修受講者(延べ人数)	H18	H19	増減
	(12,892)	29,526	※



総合教育センター全景

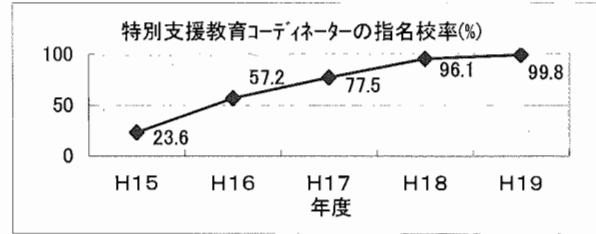
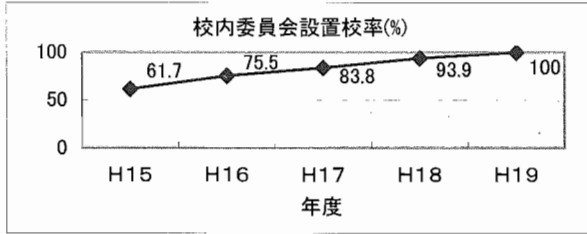
※平成18年度は、(旧)教育センター及び(旧)情報教育センターにおける数値であり、単純に比較することはできないが、参考として掲載した。

3 代表的な取組(Ⅱ)

◆特別支援教育の推進

○小・中学校における校内支援体制の整備

障害のある児童生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた適切な教育を実施するため、特別支援教育についての理解・啓発を図り、県内ほぼ全ての小・中学校において、特別支援教育に関する校内委員会の設置及び特別支援教育コーディネーターの指名が行われ、校内支援体制が整備された。



○発達障害児への対応

小・中学校等の発達障害児に対する取組への支援策として、専門家チーム員や巡回相談員を派遣し、指導内容、方法等に関する指導、助言を行う全県的な支援体制の充実を図った。

○高等特別支援学校の新設

中学校特別支援学級等からの高等部入学者の増加による教育ニーズの多様化に対応するため、比較的軽度の知的障害のある生徒を対象に、就労による社会自立を目指す高等部単独の特別支援学校を、岡山地域に平成21年度、倉敷地域に平成22年度に開校する予定で準備に着手した。

○教育環境の整備

老朽化が進んでいる誕生寺養護学校の改築を、整備計画に基づき継続的に実施した。

<協働の成果>

大学教授、医師、臨床心理士で構成された専門家チームの派遣で、大学や医療機関等との連携により幅広く地域の人材を活用することができた。

(参考数値)

	H18	H19	増減
専門家チーム員・巡回相談員派遣学校数	139	196	57



高等部 理容科の実習の様子

4 取り組むべき課題と対応方針

○児童生徒の確かな学力の向上

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、課題を浮き彫りにしながら、小学校から高校までを見通した学力向上施策の展開を図ることが必要である。

児童生徒に対しては、基礎・基本の確実な定着と、学んだ知識や技能を実生活で活用できる力の育成を図ることが重要である。また、教職員には、児童生徒が興味を持ち、分かる授業や、学習内容を確実に身に付けさせる指導力の向上が求められており、引き続きこれらの推進に努める。

○今後の特別支援教育施策

今後の本県における特別支援学校の教育体制の整備や小・中学校等での特別支援教育推進の方向性等を示すプランを策定し、そのプランに沿って今後所要の施策の推進を図る必要がある。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況は順調で、目標の達成が十分見込まれる水準にあると考えられる。

特に、総合教育センターの開所や高等特別支援学校の新設決定など、児童生徒の教育環境や教職員の研修体制の整備については、一層の取組が進んでいる。

学力向上への取組や時代の進展に対応した教育の推進など、学校教育をめぐる対処すべき課題はなお多いが、着実に取組を進めたい。

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
3					
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った					

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	103
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	青少年プログラム
プログラムの概要	子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう、道徳教育や体験活動等を推進し、家庭や地域社会の教育力の向上等を図るとともに、子どもの健康増進と体力づくりに努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
毎日朝食を食べている子どもの割合	%	81	86	81						
(指標の説明)子どもたちの望ましい食習慣の確立を目指すもの										
様々な体験学習に参加した青少年の数	人/年	102,205	112,000	110,736						
(指標の説明)子どもたちの豊かな心や健やかな成長の促進を目指すもの										
家庭教育相談員の養成数	人	474	780	658						
(指標の説明)家庭教育の在り方について、様々な場面で相談に乗ることができる人材の育成を目指すもの										
非行率	人/年	14.4	11.5	11.8						
(指標の説明) 刑法犯で検挙・補導される少年の減少を目指すもの										
小・中学校の給食における県産農林水産物の使用割合	%	34.0	40.0	41.0						
(指標の説明)学校給食への地場産物の活用を通して、子どもの食育の推進を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ◆ 青少年のマナーアップ啓発活動の実施

平成19年6月に「桃太郎ステーション」を開所し、岡山駅周辺の青少年のマナー向上を図る巡回パトロールや、大人も対象としたマナーアップ向上を狙いとしてTVスポットやポスター・チラシによる啓発活動を行うなど、青少年の規範意識の向上と青少年の手本となるべき大人のマナーアップへの取組を重点的に行った。



TVスポット

### ◆ 心と命の教育活動の推進

県内NPO法人等との協働により、犯罪被害者の遺族等が自らの体験を語って命の大切さを訴える講演会を開催するなど、子どもたちを犯罪の被害者にも加害者にもしないための「心と命の教育活動」を推進し、少年の規範意識の向上を図った。



心と命の教育活動

(参考数値)

非行率の 全国ワースト順位	H18	H19
	5位	7位

### <協働の成果>

NPO組織や青少年育成団体などと協働しながら、青少年に対する規範意識を高める活動や命の大切さの理解を深めるための教育などが進んだ。



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ◆ 食育から広げる生活リズム向上運動

子どもの基本的な生活習慣や生活リズムの向上を図るため、「早ね早おき朝ごはん」運動の推進やフォーラムの開催などの取組を行った。また、モデル地域を指定し、学校給食への地場産物の利用促進や食に対する体験活動にも取り組んだ。

##### (1) 学校給食の地場産物利用の推進

学校給食に県産農水産物を使用する取組について、シンポジウムの開催や、栄養教諭・学校栄養職員による献立づくりの工夫を行ってきているが、さらに、「食育から広げる生活リズム向上プラン」として、6モデル地域を指定し、地場産物利用の一層の推進に取り組んだ。



地場産物を利用した学校給食  
「下津井産たこ飯」

##### (2) 「早ね早おき朝ごはん」運動の推進

関係団体等と連携し、子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させることを目的に、「早ね早おき朝ごはん」運動を推進した。



「早ね早おき朝ごはん」  
運動ロゴマーク

#### <協働の成果>

学校、PTA、地域ボランティア、農業関係者等と連携のもと、子どもの望ましい食習慣向上に向けた取組を推進している。

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 多様化する青少年問題への対応

多様化する青少年問題に対応した施策を推進するため、「青少年問題を考え、行動する100人委員会」などと協働して、青少年の非行防止や青少年の規範意識の向上等に引き続き取り組んでいくとともに、青少年の体験活動や地域貢献活動の拡大を図るなど、青少年対策を総合的に推進していく必要がある。

#### ○ ケータイネット問題への対応

出会い系サイト事件や「ネットいじめ」等、青少年を取り巻くケータイネット環境は、大人が問題等に気づきにくく、諸問題の温床となっている。このため、青少年や保護者を対象とした啓発活動や学校での情報モラル教育の一層の充実などに取り組んでいく必要がある。

### 5 総合評価

青少年の健全育成については、青少年の規範意識を高める運動や有害環境の浄化対策、ケータイネット問題への対応等の取組を推進した。

また、健康的な生活リズムをつくる朝食を食べる重要性が児童生徒や家庭・地域に浸透しつつある。

夢づくり協働指標の達成状況については、概ね目標水準であると考えている。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	104
担当部局	教育庁

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	生涯学習プログラム
プログラムの概要	誰もが生涯にわたって、いつでも、どこでも自由に学習でき、成果を生かすことができるよう、学習機会の充実を図るとともに、全国生涯学習フェスティバルの開催を契機とし、生涯学習による地域社会づくりを推進します。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
生涯学習の講師・ボランティアとして登録している者の数	人	2,950	3,800	3,055						
(指標の説明)学習機会の充実などの環境づくりがどの程度広がりを見せているか表すもの										
公的な生涯学習講座への参加者数	人/年	1,098,873	1,300,000	1,147,676 (フェス811,000)						
(指標の説明)多様な学習活動への参加者が、増加することを目指すもの										
県民が1年間に公立図書館から借りた本の数	万冊/年	987	1,200	1,105						
(指標の説明)学習拠点としての公立図書館の、県民利用者の増加を目指すもの										

## 3 代表的な取組 (I)

### ◆第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の開催

岡山県総合グラウンドほか27全市町村を会場に、学習活動や学習成果の発表の場を提供することによって、県民の生涯学習の意欲を高め、学習活動への参加を促進し、学習活動を盛んにするためのイベントとして、文部科学省、市町村、各種生涯学習関連団体等と連携・協働して開催した。

- 事業内容
- ・生涯学習見本市
  - ・生涯学習体験広場
  - ・記念事業(シンポジウム等)
  - ・参加事業(大正琴演奏会他)
  - ・市町村主催事業(生涯学習おもちゃ箱in岡山ドーム他)

○大会史上初めて県内全市町村が参加した大会となったことや、出演・出展者をはじめ、行政・企業・学校・各種団体・ボランティア等との協働による取組によって、5日間で約81万人の参加・来場者、534団体の出展・参加団体があった。

この大会の開催を通じ、様々な機関や団体等とのネットワークが構築され、生涯学習推進組織の充実が図られるとともに、市町村においては、地域の良さの再発見や一体感の醸成、地域活動の掘り起こしにつながり、生涯学習による「地域社会づくり」への主体的な参画意識が高まった。

#### <協働の成果>

市町村、企業、学校、NPO等民間団体等との協働により、生涯学習活動の取組が促進された。

#### (参考数値)

	H18	H19	増減
おかやま学びの輪※登録団体	20	67	47

※生涯学習活動や地域社会づくり等を行っている機関、団体、企業等で構成するネットワーク



「まなびピア岡山2007」主会場の様子

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ◆県立図書館機能の充実

平成16年に開館した県立図書館は、入館者数等が全国の都道府県立図書館でトップとなるなど好調な利用状況であるが、さらに県民に親しまれる図書館となるよう、機能の充実を図る取組を行っている。平成19年度は、県立高等学校からの搬送希望に応える取組を充実させたほか、県内図書館との相互貸借を拡充するなど利用者の利便性向上を進めた。

また、県内図書館の中核的機能を持たせるため幅広い資料の収集や全県域を対象にしたサービスを充実させたほか、図書館ボランティアの養成を図るなど、県民の学習活動支援に取り組んだ。

#### ○資料搬送システムの充実等利便性向上の取組

- ・県内高等学校への搬送事業試行実施 41校:7,245冊(11校増:3,583冊増)
- ・県内図書館との相互貸借の増加 県立図書館からの貸出 31,003冊(8,750冊増)
- ・インターネット予約冊数の増加 60,918冊(12,621冊増)

#### ○資料等の充実

- ・蔵書冊数の増加 930,874冊(80,461冊増)
- ・横断検索システム対象蔵書冊数 7,263,176冊(394,210冊増)
- ・郷土情報ネットワーク登録件数 68,236件(27,269件増)
- ・レファレンステータベース登録件数 2,990件(1,505件増)

[注] ( )内は、前年度比

#### 全国の都道府県立図書館でのトップ項目

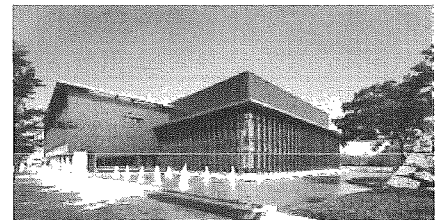
- ・購入冊数 52,092冊
- ・来館者数 1,039,979人
- ・個人貸出冊数 1,204,435冊  
(H19年度実績)

#### <協働の成果>

図書館における読み聞かせなどのボランティアの養成、研修を行い、協働で図書館機能の充実を図ることができた。

(参考数値)

	H18	H19	増減
県立図書館 個人貸出冊数	1,106,655	1,204,435	97,780



県立図書館全景

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○「まなびピア岡山2007」開催成果の継承

第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の開催により盛り上がった生涯学習推進の機運を一層高めるため、全県レベルの交流会・発表会として県民フェスティバルを開催した。「まなびピア岡山2007」及び県民フェスティバルを通じて生まれた団体等のネットワークを一層拡充・発展させるため、生涯学習活動をサポートする「おかやま学びの輪」への加入を促進するとともに、加入団体相互の交流等を支援し、活動の活性化を図る。

#### ○講師・ボランティア登録者数

岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」の活用研修を県内各地で実施するなど、積極的に「ばるネット岡山」を周知することを通して、講師・ボランティアへの登録者数の増加及び活用促進に努め、学習成果を積極的に生かすことのできる環境整備を一層推進する。また、「ばるネット岡山」の今後の在り方、活用方法等について検討を行い、県の生涯学習情報提供システムとしての充実を図る。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況は順調で、目標の達成が十分見込まれる水準にあると考えられる。

特に、「まなびピア岡山2007」の開催、大学コンソーシアムの取組等を通じ、官民の連携・協働による学習機会の充実、学習活動への参加や、人材育成、地域社会づくり等を推進することができた。また、県民が1年間に公立図書館から借りた本の数は増加しており、県民の学習拠点としての県立図書館の役割は大きい。

今後も目標の達成に向け、着実な取組を進めたい。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	105
担当部局	産業労働部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	人権プログラム
プログラムの概要	すべての人々が差別意識を持たず、社会の一員としてお互いに尊重し、支え合う地域社会づくりを目指して、県民の人権意識の高揚を図るとともに、人権尊重の視点であらゆる行政施策の推進に努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
人権情報コーナーの設置数	箇所	0	500	111						
(指標の説明)地域住民の利用頻度の高い施設を活用し、人権に関する情報の幅広い発信を目指すもの										
人権啓発・教育リーダー数	人	115	300	219						
(指標の説明)人権啓発・教育活動を一層推進するため、深い認識と実践力を持った指導者の養成を目指すもの										

## 3 代表的な取組(I)

### ■人権啓発の充実 (国・市町村・NPO法人等と連携を図りながら、総合的・効果的な人権啓発に努める。)

#### ・ハートフル講座2007開催事業

様々な人権問題をテーマに、気軽に参加してもらえる講演会、映画上映会等を年10回県内各地で開催した。  
年10回・2,798人参加(「日本の黒い夏」上映会、乙武洋匡講演会、手話演劇「大仏も笑う会」公演等)



ハートフル講座 第6回  
(河野義行講演会及び「日本の黒い夏[冤罪]」上映)

#### ・人権啓発パートナーシップ事業

NPO法人の行う人権啓発事業を支援することにより、民間団体との協働による人権尊重意識の高揚を図った。

#### 〈協働の成果〉

地域で人権意識の高揚を目的に活動しているNPO法人(10団体)と協働し、様々な人権テーマを取り上げた啓発事業を県内各地で開催した。



岡山高齢者・障害者支援ネットワーク研修会

#### (参考数値)

パートナーシップ事業を実施したNPO法人数	H18	H19	増減
	0	10	10

NPO法人名	事業名
岡山県国際団体協議会	岡山県在住外国人支援者(団体)研修会
岡山高齢者・障害者支援ネットワーク	精神障害者社会復帰支援研究報告会
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	犯罪被害者の人権を考えるシンポジウム
吉備路ふれあいネット	部落問題講演会(人権講演会)
子ども達の環境を考える・ひこうせん	育て いのちの木 プログラム ~人権啓発事業~
ころばぬ先	成年後見人養成のための研修会
ステップハウスわ	映画による人権啓発事業
地域人権みんなの会	教育と人権について考える学習集会
美作絆を結ぶ支え愛の会	在住外国人との交流事業
リスタート	ニート、ひきこもりの若者応援事業

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ■人権教育の取組

##### ・人権教育・啓発指導者養成講座

<各回の代表的な内容>

- 第1回:「身近なところから差別意識をなくそう！」(講義・演習)  
講師:企画表現研究所所長 雪竹欽哉
- 第2回:「洪染一揆の足跡を訪ねて」(現地研修)
- 第3回:「国立療養所 邑久光明園を訪ねて」(現地研修・交流)
- 第4回:「ファシリテーターになるために！」(ワークショップ)  
講師:ERIC国際理解教育センター 角田尚子
- 第5回:「アイヌの人々と人権」(講義)  
講師:アイヌ文化振興・研究推進機構 居壁 太
- 第6回:「研修プログラムをつくってみよう！」(演習)



洪染一揆現地研修



邑久光明園現地研修

#### 参加者の意見

「現地研修を行うことで、当時の様子がよく理解できた。」「演習では多くの人と意見交換ができ良かった」「自分の問題として差別をとらえることができた」「人権問題についてもっと勉強を重ね、それを広めていきたい」

#### <協働の成果>

民間団体の職員等を研修講師として招き、リーダーの養成に努めるなど、協働の取組は進んだ。



「アイヌの人々と人権」の講義

(参考数値)

人権啓発・教育 リーダー数(累 計)	H18	H19	増減
	185	219	34

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○人権啓発の充実

広域的、効果的な啓発を行うため、国・市町村・NPO法人等との連携・協働を一層進める必要がある。

#### ○人権相談機関のネットワーク化及び連携の強化

県民からの相談に的確に対応するため、人権に関する各相談機関のネットワーク化を進めるとともに機関相互の連携を強化する必要がある。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の平成19年度の進捗状況は、いずれの指標も好調であった。

また、マスメディアの活用、イベントや講演会の開催、参加型・体験型の研修の実施、人権情報コーナーの設置、情報紙の発行、HPの充実及びNPO法人・県民等との協働事業の実施などにより、人権啓発の総合的、効果的な推進を図ることができている。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					
5	目標水準を大きく上回った				
4	目標水準を上回った				
3	概ね目標水準				
2	目標水準を下回った				
1	目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	106
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	男女共同参画プログラム
プログラムの概要	男女が対等な社会の構成員として、様々な社会活動に参画する男女共同参画社会の実現を目指して、男女の意識改革を促進するとともに、女性のチャレンジ支援、男女共同参画推進センター(ウイズセンター)の充実などを進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
管理職に占める女性の割合<民間企業>	%	15.5	25	16.3						
(指標の説明) 係長職以上に就いている女性の割合を増やし、企業方針の決定過程への参画促進を目指すもの										
" <一般職公務員>	%	6.7	10	6.1						
(指標の説明) 県と市町村の一般職公務員で管理職に就いている女性の割合を増やし、行政分野の政策等決定過程への参画促進を目指すもの										
" <教育職公務員>	%	21.5	25	21.9						
(指標の説明) 校長職等に就いている女性の割合を増やし、教育方針等決定過程への参画促進を目指すもの										
男性の育児休業取得率	%	0.2	2.5	0.4						
(指標の説明) 子育てと仕事が両立でき、男女がともに出産・子育てがしやすい職場づくりを目指すもの										
配偶者等からの暴力防止啓発講座等受講者数	人	1,069	4,700	2,509						
(指標の説明) 重大な人権侵害であるDVへの認識を広め、暴力を許さない環境づくりを目指すもの										

## 3 代表的な取組(I)

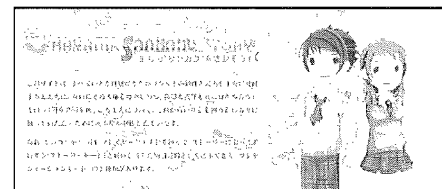
配偶者からの暴力(DV)だけでなく、若い世代の交際相手からの暴力(デートDV)も、昨今、大きな問題となっている。DVの防止のためには、その行為がDVであると認識を持つこと及びお互いの人権を尊重しあう男女共同参画の意識の醸成が必要であり、その啓発活動に取り組んだ。

### <協働の成果>

若い世代向けや高等学校等で行う人権教育などに活用できる2種類の啓発資材を民間団体と協働して作成した。

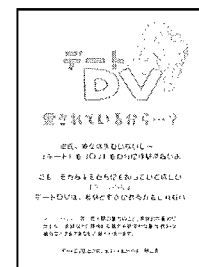
#### (1) 若者向け啓発キット「OKAYAMA SANKAKU STORY (オカヤマ・サンカク・ストーリー)」の作成

若者に身近なパソコンを使った体験型ゲーム形式。登場人物が抱える男女共同参画に関する悩みを一緒に考えていく中で、自然と男女共同参画意識が身につくよう工夫している。ウェブ上のほか、CD-ROMも作成し、高校等に配布している。



#### (2) デートDV啓発冊子「デートDV 愛されているから・・・?」の作成

イラストや柔らかな文体、手触りのよい紙質など、若者が手にとり、長く手もとに置いておきたいと思えるように工夫した啓発冊子を作成。県内の高校の授業で活用されたり、県外自治体での啓発事業等、幅広く活用された。



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

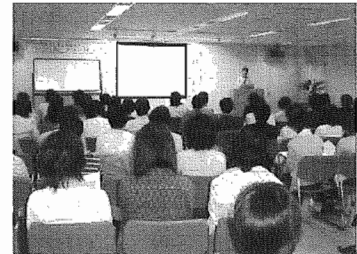
男女共同参画推進センター(愛称:ウィズセンター)を中心に、講演会や県内各地での出前講座、市町村との共催による地域フォーラム、民間活動団体と協働したウィズフェスティバル等を開催するなど、男女共同参画意識の啓発を幅広く行った。

#### <協働の成果>

市町村や活動団体等と協働し、男女共同参画社会の実現に向けた各種事業を行った。

#### (1)ウィズカレッジ事業

県内外から講師を招き、男女共同参画に関する深い知識と最新の情報を学ぶことのできる講演会や講座を開催した。



#### (2)男女共同参画地域フォーラム事業

家庭や地域から男女共同参画の意識を広げていくことが重要なため、県民のみなさんに最も身近な自治体である市町村と協力し、講演会(フォーラム)を開催した。



#### (3)ウィズフェスティバル2007

ウィズセンターに登録している県内の活動団体からの代表者が集まった実行委員会と県が協働し、企画・運営を行った。記念講演会や登録団体によるワークショップなど多彩な内容で、男女共同参画意識の気運の醸成を図った。

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○政策・方針決定過程への女性の参画促進

企業や団体などに対して、女性の管理職への登用など積極的な取組が行われるよう、国などと連携して働きかけるとともに、一層の広報・啓発に取り組む必要がある。

#### ○暴力防止のための啓発

DV被害者の自立支援やDV防止のための啓発とともに、若い世代でのデートDVも重大な問題となっていることから、啓発資材を活用し、若者への普及啓発に一層取り組む必要がある。

### 5 総合評価

男女共同参画社会の実現に向けて、ウィズセンターを中心とした各種啓発講座の開催、若者向け啓発資材の作成など各種事業に着実に取り組み、男女共同参画条例・計画の策定市町村数の増加、民間企業の管理職に占める女性比率の上昇等、進捗は概ね目標水準であると考えられる。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	107
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	文化プログラム
プログラムの概要	心豊かな地域社会の実現を図るため、県民が優れた芸術や豊かな伝統文化を享受し、文化活動が活発に行われる仕組みづくりに取り組むとともに、個性豊かな地域文化の継承や新しい文化の創造に努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
県内の文化団体数	団体	945	1,030	936						
(指標の説明)県民の主体的な文化活動が活発に行われていることを示す一つの指標として、文化団体の団体数の増加を目指すもの										
公募による展覧会への応募作品数	点/年	3,215	3,750	3,223						
(指標の説明)県民が自ら芸術文化の創造に活発に取り組んでいることを示す一つの指標として、県内最大の公募展である岡山県美術展覧会への応募作品数の増加を目指すもの										
登録文化財の登録件数	件	112	200	167						
(指標の説明)後世に幅広く継承する文化財建造物等の件数の増加を目指すもの										

## 3 代表的な取組(I)

県民協働による文化の振興を促進するため、岡山県文化連盟を通じて、市町村文化協会が他の文化協会やNPO、文化団体等と行う事業を支援した。

- ・矢掛町文化協会「美術館通りアートフェスタ」、総社市文化協会「れとろーど'07」等地域のNPO等他団体を巻き込んだ文化による地域づくりイベントの開催を助成した。
- ・岡山県文化連盟が行う、文化人材バンク事業(希望する市町村の文化協会や小中学校等へ分野別の文化団体構成員が講師として出向き、時代を担うアーティストの養成に資する事業)への支援を行った。

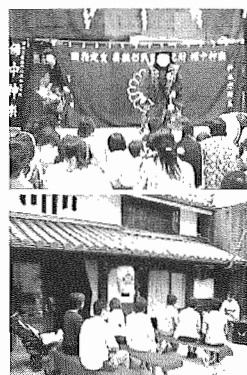
### 〈協働の成果〉

岡山県文化連盟と協働して、文化団体間の交流促進、地域の文化力向上、文化団体の活性化を図った。

〈町並みの軒先に配置された生花や道標〉



〈空き店舗を利用して神楽や茶席の開催〉





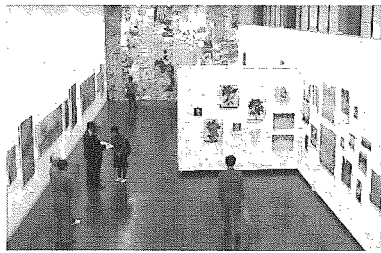
### 3 代表的な取組(Ⅱ)

天神山文化プラザを、県民に身近な芸術文化活動、文化情報の拠点施設として、多くの文化団体や県民の利用に供している。  
また、天神山文化プラザにおいて、「アートは今・岡山」などの展示や「天プラ・ホールセレクション」と題した各種公演、ワークショップなどの多様な自主企画事業を実施し、文化力の向上を図った。

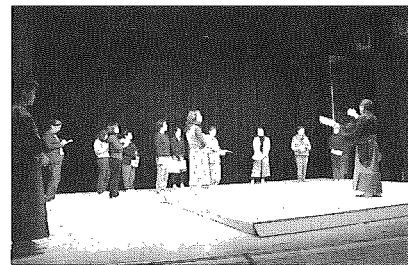
#### 〈協働の成果〉

美術関係者や舞台芸術のNPOなどと一緒に自主企画事業を実施することにより、より魅力的で多くの方に足を運んでいただける事業となった。

〈アートは今・岡山展 会場風景〉



〈ワークショップ 狂言:太郎冠者になってみよう〉



(参考数値)

	H18	H19	増減
天神山文化プラザ 施設利用者数	193,878	210,013	16,135

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○県民の文化活動の一層の活性化

地域文化団体の交流促進や文化連盟の機能充実を図ったり、文化活動を顕彰することにより、多彩で個性豊かな県民の文化活動の活発化を図る。

#### ○天神山文化プラザ・県立美術館の利用促進

施設の利便性を高めるとともに、魅力ある企画に努め、県民の文化施設の一層の利用促進を図る。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、一部の指標について、進捗(達成)率の低調な指標も見受けられるが、文化団体やNPO等の方々と協働で地域文化の活性化を図っており、多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供できた。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	108
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	国民文化祭プログラム
プログラムの概要	国民文化祭の開催を契機として、県民の文化力向上、全国に向けた文化発信、県内外の文化交流を進め、本県の一層の文化振興を図ります。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
県民文化祭参加者数	人/年	271,830	300,000	305,114						
(指標の説明) 国民文化祭に向けて、県民文化祭への参加者を広げ、一層の気運の醸成を目指すもの										
国民文化祭参加者数	人	-	1,600,000	-						
(指標の説明) 県民総参加の国民文化祭を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ○県民文化祭の開催

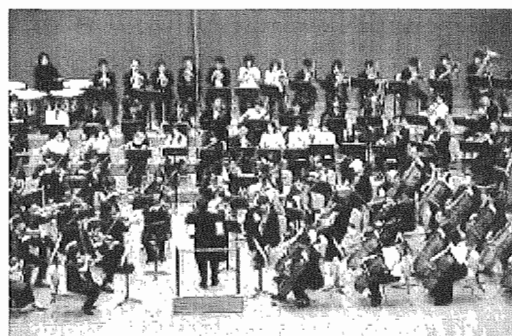
- ・主催事業及び協賛事業合わせて166事業が県内各地で開催され、過去最大の参加者数となった。  
 ※主催事業: 総合フェスティバル(オーケストラの祭典、書道展等)、分野別フェスティバル、県美術展覧会 ほか
- ・県民文化祭のテーマを、国民文化祭と共通の「晴れの国おかやま文化回廊」とした。
- ・協賛事業の主催団体に、国民文化祭のロゴマークの積極的な活用を呼びかけるなど、PRに努めた。

### <協働の成果>

- ・県レベル文化団体が開催する分野別フェスティバル等は、14事業(15団体)と過去最大となった。



<華道展>



<オーケストラの祭典>

### (参考数値)

	H18	H19	増減
県民文化祭参加者数(人)	293,456	305,114	11,658

3 代表的な取組(Ⅱ)

○第25回国民文化祭の開催準備

- ・開催の主体となる第25回国民文化祭岡山県実行委員会を設立し、設立総会及び第1回総会を7月に開催した。
- ・国民文化祭で開催する事業の概要等を実施計画大綱(素案)として策定した。

<協働の成果>

- ・平成20年2月3日に開催1000日前を記念して、文化団体や県民約1,500名の参加により、「1000日前祭」を開催し、開催気運の盛り上げが図られた。



<1000日前祭 文化団体ステージ>



<1000日前祭 フィナーレ>

4 取り組むべき課題と対応方針

○第25回国民文化祭の開催準備

- ・国民文化祭については、真に文化活動の発表と鑑賞の機会としてふさわしい事業となるよう、過去の例にとらわれることなく徹底した見直しを行い、先催県平均の半分未満の事業費(県費)で、国民文化祭の「岡山モデル」を目指し、国や市町村、文化関係者とともに、開催準備を進めていく。

- 5 ・夢づくり協働指標の達成状況については、県民文化祭の参加者数が増加し、すでに目標値を超えている状況である。今後、さらに、新たな文化の創造、地域の文化活動の活性化を図り、国民文化祭後も見据えながら、レベルの高い、また、多くの県民に身近に感じられる県民文化祭に進化させていく必要がある。
- ・第25回国民文化祭の開催準備は概ね計画どおりに進んだ。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	109
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	スポーツプログラム
プログラムの概要	世界へ羽ばたくトップアスリートの養成など、競技スポーツの振興に取り組むとともに、県内各地で県民が気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進め、ライフステージにあったスポーツ活動の推進に努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

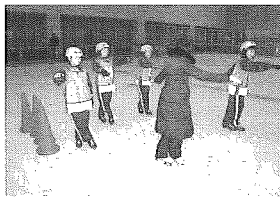
指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
国際大会への日本代表選手のうち本県関係者数	人/年	15	100 (5年間)	57						
(指標の説明)国際大会へ出場する日本代表選手のうち、本県関係者を5年間で100人輩出することを目指すもの										
総合型地域スポーツクラブ会員数	人	6,176	10,000	7,092						
(指標の説明)気軽にスポーツを楽しむことのできる総合型地域スポーツクラブの会員数の増加を目指すもの										
スポーツリーダーバンク登録人数	人	147	240	204						
(指標の説明)スポーツ振興を図るため、専門資格を持つ指導者等のバンクへの登録者数の増加を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ○夢アスリート発掘事業

初代となる「2007おかやま夢アスリート」22名に対し、月2回の割合で基本的な動きの習得等、体をコントロールする能力を高める身体能力開発プログラムとコミュニケーション能力及びストレスをコントロールする能力等を高める知的能力開発プログラムなどを実施するとともに、保護者や指導者を対象に基礎的運動知識や栄養・心理面など様々な情報提供を行った。二期生となる「2008おかやま夢アスリート」について、小学校3年生を対象に募集を行い選考会等を実施し、21名を選出した。

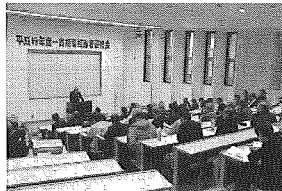
#### ●能力開発プログラムを受けるおかやま夢アスリート



### ○夢アスリート育成事業

各競技団体による一貫指導システムの構築に向けて、中央から講師を招いて全体研修会を開催するほか、18年度に一貫指導カリキュラム策定済みの7競技団体には、広く普及するための体制づくりの指導を行うとともに、19年度から策定に取り組んだ16競技団体には競技別研修会を開催するなどの支援を行った。

#### ●中央から講師を招いての全体研修会



### 〈協働の成果〉

夢アスリートの発掘事業では、国立スポーツ科学センターや学識経験者、県内競技団体等と連携を図り、優れた人材の選出や夢アスリートへの能力開発プログラムを提供した。また、夢アスリート育成事業では、日本オリンピック委員会や中央競技団体と連携を図り、県内競技団体の指導体制の確立に努めた。

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ○総合型地域スポーツクラブの設立支援

体力・年齢・技術・目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに親しむことができる総合型地域スポーツクラブを各市町村に少なくとも1つは設立することを目標に取り組んでおり、平成19年度には新たに7クラブが設立された。

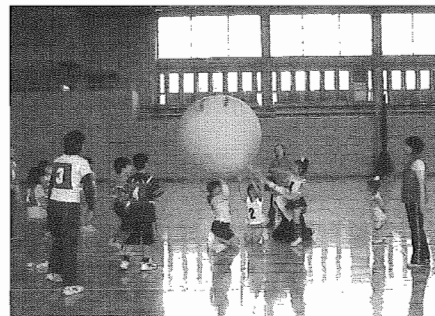
- ・瀬戸町総合型地域スポーツクラブ(岡山市)
- ・児島総合型スポーツクラブ(倉敷市)
- ・みやまスポーツクラブ(玉野市)
- ・たかはしコミュニティ・スポーツクラブ<ピオーネ>(高梁市)
- ・びぜん優くらぶ(備前市)
- ・ひなせオレンジクラブ(備前市)
- ・夢咲クラブ(美咲町)



設立準備段階の団体に対して、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業等により、財政的な支援を行うとともに、クラブの運営について指導を行った。

#### 〈協働の成果〉

設立準備団体である市町村、市町村体育協会、体育指導員等と密接な連携を図りながら、クラブ設立に取り組んだ。



(参考数値)

	H18	H19	増
総合型地域スポーツクラブ数	24	31	7

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○トップアスリートの養成

トップアスリートを養成するためには、優れた人材を早期に発掘し育成することが必要であることから、小学校3年生を対象に選出した優れた人材に対して、小学校卒業まで各年代に応じた身体能力及び知的能力の開発プログラムを継続的に提供するなど、将来トップアスリートとして活躍するための基礎づくりを行うとともに、県内競技団体の一貫指導システムの構築に向けて支援を行う。

#### ○総合型地域スポーツクラブの設立支援

クラブ設立に取り組むのは市町村の設立準備団体が主体となるため、県が市町村や準備団体を主導して新規取組を促すことが困難である。まずは、住民の理解を得るため、関係団体と連携して総合型地域スポーツクラブ啓発フォーラムや研修会を開催する。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、全ての項目において進捗状況は目標水準を上回っているが、今後も引き続き、生涯スポーツの振興と競技力の向上のため、各種施策を推進していくこととしている。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	110
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「教育と人づくりの岡山」の創造
戦略プログラム	パートナーシッププログラム
プログラムの概要	ボランティアやNPOの活動が活発に行われ、多様な主体がいきいきとした地域社会づくりに取り組めるよう、人材育成、情報提供、少子・高齢化時代に対応した各種活動の促進、活動支援拠点の充実などを進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
ボランティア数	人	94,930	108,000	115,191						
(指標の説明)ボランティア活動がどの程度多くの人に担われているかを表し、ボランティア活動実践者の増加を目指すもの										
NPO法人の認証数	団体	329	630	446						
(指標の説明)地域づくりの主体としてパートナー社会の構築に大きな役割を持っているNPO法人の認証数の増加を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 「ふるさとづくりももたらう塾」10周年記念大会の開催

「ふるさとづくりももたらう塾」の10周年を記念し、10年間の歩みを総括するとともに、その成果を県民に周知することにより、住民主体の地域づくりをより一層進めるため、平成19年11月17日～18日の2日間、10周年記念大会を開催した。

### 「ふるさとづくりももたらう塾」のカリキュラム

現在の地域が抱える課題の発見と解決方法、コミュニティづくりと住民参加や活動の手法等をテーマに、講師による講義、討論、塾生の自主企画によるグループ研究等を行い、研究の成果を発表した。

### 〈協働の成果〉

県コミュニティ協会と共催で、個性と魅力にあふれる活力ある地域づくり・人づくりを進めるために、協働の相手方である地域づくり団体や市民活動グループ・団体などで中核となるリーダーを育成した。



### (参考数値)

ふるさとづくりももたらう塾卒塾生(人)	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	合計
	37	35	37	35	30	26	30	25	34	38	33	360

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

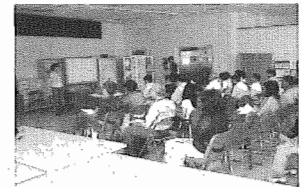
#### 「ゆうあいセンター」の機能充実

ゆうあいセンターの支援機能として、情報交換・交流等のスペースや会議室・研修室を提供するとともに、センターの指定管理者(民間)の有する知識等を活かし、NPO法人運営相談やボランティア・NPO活動を始める方からの相談に対応(相談件数:504件)し、活動への参加促進と活性化に努めた。



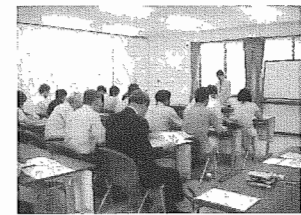
#### 「ボランティア・NPO出前セミナー」開催

ゆうあいセンターの有するボランティア・NPOに対する支援等の各種機能を県内全域に波及させ、ボランティア・NPO活動の普及促進を図るため、出前セミナーを開催した。(井原市、津山市で開催:参加者83人)



#### 「NPO法人設立出前説明会」開催

NPOの活動により地域活性化を図るため、NPO法人の活動が少ない地域において、地域人材の発掘とNPO法人設立の促進のための出前講座を開催した。(倉敷市、美作市、高梁市、津山市、和気町、笠岡市で開催:参加者69人)



#### <協働の成果>

県とゆうあいセンター指定管理者との協働と併せて、学識経験者、市民活動実践者、センター利用者等で構成する運営委員会を設置し、その意見等をセンター運営に反映することで、利用者ニーズに対応したセンター機能の充実・強化が図られ、県全域を対象とした支援施設として拠点性が高まった。

(参考数値)

ゆうあいセンター利用者数(人)	H18	H19	増減
	53,940	61,236	7,296

(1日当たり利用者数)

(H17:133人、H18:179人、H19:202人)

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○「ふるさとづくりももたろう塾」塾生の地域的な偏在

地域づくりリーダーを県内で幅広く養成する観点から、塾生の少ない県北地域での入塾勧誘に努める必要がある。

#### ○市町村の取組支援

ボランティア・NPO活動は地域に根ざした活動が多く、身近な地域でのボランティア・NPOへの支援拠点整備は、活動の県内全域への波及に欠かせないものであり、ゆうあいセンターでは、市町村の取組を支援して行く必要がある。

### 5 総合評価

ボランティア・NPO活動に対する県民の関心が高まる中、新しい公共の担い手として期待されるボランティア・NPOの活動の活性化や活動機会の拡大を図るとともに、活動への理解や評価が得られるよう、地域づくりリーダーの育成や団塊の世代の市民活動参加促進、NPO法人設立促進などの事業に取り組み、夢づくり協働指標の達成に向けて着実な成果を上げることができた。

また、ゆうあいセンターのボランティア・NPO活動支援拠点としての機能の充実・強化と利用促進に努め、利用者的大幅な増加を達成でき、幅広い人的交流と連携の輪が拡大した。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	201
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	安全・安心まちづくりプログラム
プログラムの概要	犯罪のない安全で安心な社会の実現を目指して、小学校を中心とする自主防犯活動の推進をはじめ、市町村、県民、自治会等、ボランティア・NPO及び事業者との連携・協働による安全・安心なまちづくりを進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
自主パトロール活動等実践組織数	団体	438	700	589					
(指標の説明)活動団体がない160小学校区の解消に加え、100団体の増加を目指すもの									
地域安全マップ作成小学校の割合	%	57.4	100	48.0					
(指標の説明)子どもたちが犯罪被害に遭わないよう、毎年度、全小学校で地域安全マップの作成を目指すもの									
防犯責任者設置事業所数	事業所	0	2,000	620					
(指標の説明)金融機関、コンビニエンスストアを中心に各事業所ごとの防犯責任者設置を目指すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

- 地域住民に最も身近で基礎的な地域単位である小学校区を基本とする自治会、町内会、PTA、老人会、婦人会等の諸団体が一体となった取組が県内全域(全小学校区)で展開されるよう、市町村と連携し、自主防犯活動団体の組織の立ち上げや活動の充実のための経費を助成した。
  - 補助率: 市町村が団体に補助する額の1/2以内(県補助金額: 上限10万円)

- 自主防犯活動のノウハウを熟知し、併せて地域内の諸団体の活動をコーディネートする能力を有するリーダーやコーディネーターを養成する講座を開催し、子どもの見守り活動や自主防犯活動の一層の活発化・定着化を図った。

〔講座の概要〕

- 犯罪の現況と対策
- 有識者等による講演
- 活動実践者による事例紹介
- パトロールの現地研修
- 参加者間の意見交換等



<協働の成果>

県、市町村、ボランティア団体が連携しながら、それぞれの役割分担に基づき、安全・安心まちづくりの実現に向けた取組を展開している。

(参考数値)

	H18	H19	増減
補助を受けた団体数	58	96	38

(参考数値)

	H18	H19	増減
講座への参加人数(年間)	60	169	109



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

学校への登下校時に子どもを狙った犯罪や不審者遭遇事案が続発するなど、子どもの安全確保が喫緊の課題となっている。

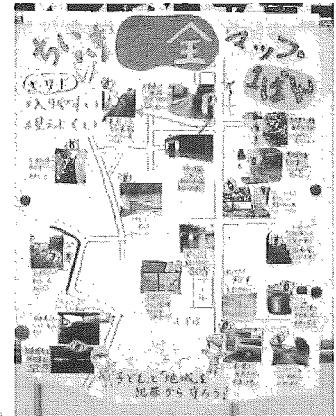
このため、子どもの危険予測能力、危険回避能力を向上させる効果がある「地域安全マップづくり」の指導者を養成する講座を開催し、小学校等における「地域安全マップづくり」の普及促進を図った。

〔講座の概要〕

- 講義
- フィールドワーク(会場周辺をグループで実地に検証)
- 地域安全マップ作成
- 発表・講評

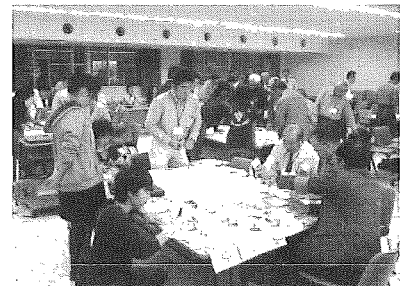
〔受講者〕

小学校教員、市町村教育委員会担当者、警察署担当者、大学生ボランティア、地域ボランティアなど



<協働の成果>

講座には小学校教員などの教育関係者だけでなく、地域で見守り活動を実施しているボランティアの方々も参加しており、「地域安全マップづくり」は、小学校における取組にとどまらず、地域全体の取組として進めるべきものであるという認識が広がりにつつある。



(参考数値)

	H18	H19	増減
講座への参加人数(年間)	107	474	367

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 自主防犯活動団体活動支援

自主防犯活動団体が息の長い活動を安定的に実施していくための効果的な支援の在り方について、今後、県、市町村、ボランティア団体、自治会等の役割分担を踏まえ、検討する必要がある。

#### ○ 防犯責任者設置の推進

防犯責任者の設置が進まない業種も見受けられることから、今後とも、業種別に防犯責任者に関する説明会を開催するなど、その意義や効果等の周知を図るための取組を強化する。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の状況としては、概ね順調に推移しており、目標の達成が十分見込まれる水準である。

今後、取り組むべき課題に対応しつつ、犯罪のない安全で安心な岡山県の実現に向け、着実に施策を実施していく。

プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					
5	目標水準を大きく上回った				
4	目標水準を上回った				
3	概ね目標水準				
2	目標水準を下回った				
1	目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	202
担当部局	警察本部

## 1 施策の概要

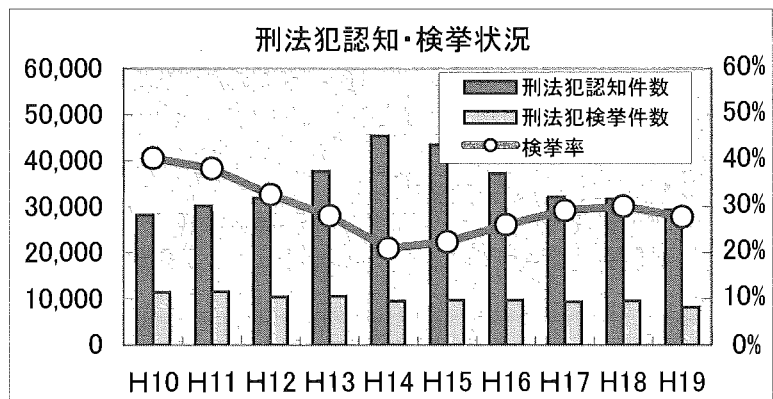
基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	暮らしと交通の安全プログラム
プログラムの概要	県民生活に危険を及ぼす犯罪・事故等を未然に防止するため、身近な犯罪や凶悪化・組織化・国際化する犯罪への対策、少年非行防止対策を強化するとともに、交通安全対策を推進します。また、犯罪被害者等への支援や日々の生活における消費者被害の撲滅を進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
刑法犯認知件数	件	32,102	27,000	29,257					
(指標の説明) 犯罪対策等の推進により、県内の刑法犯罪の減少を目指すもの									
交通事故死者数	人	148	115	115					
(指標の説明) 交通安全対策等の推進により、交通事故で亡くなる方の減少を目指すもの									
交通事故負傷者数	人	26,968	21,000	24,579					
(指標の説明) 交通安全対策等の推進により、交通事故で負傷される方の減少を目指すもの									

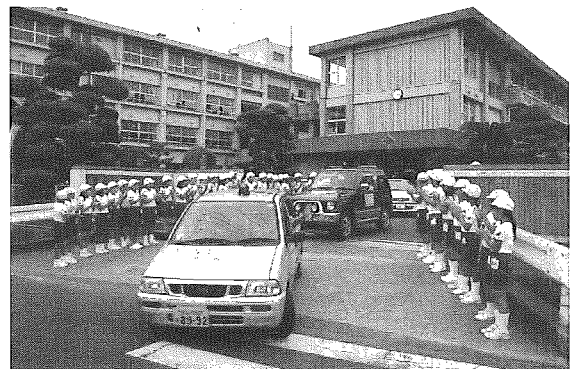
## 3 代表的な取組(Ⅰ)

- 街頭犯罪等抑止総合対策の推進  
犯罪情勢の的確な分析とこれまでの施策による効果の検証を行い、犯罪が多発する時間帯・場所に警察力を集中運用した。また、身近な犯罪の発生状況等をタイムリーに情報提供するなどして、県民総ぐるみの実効ある抑止対策を推進した。



### <協働の成果>

自主パトロール隊をはじめとする地域住民等による自主防犯活動の促進を図るため、防犯講話、防犯訓練及び合同パトロール、地域安全情報の効果的な提供等を行い、自主防犯活動に対する積極的な支援を行うなど、地域住民等との協働の取組を強化した。



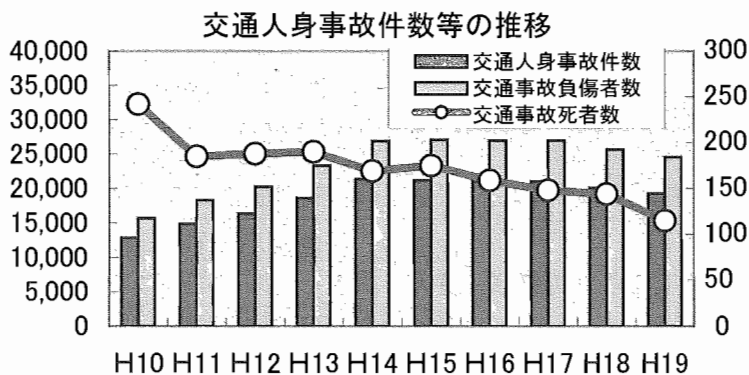
### (参考数値)

学校対象の防犯訓練・防犯教室の実施回数	H18	H19	増減
	664	676	12

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ○ 高齢者交通安全対策の推進

交通安全講習等を受講する機会の少ない高齢者に対し、交通安全意識の高揚を図るため、交通指導員が高齢者世帯を訪問しての指導や小集団に対する交通安全指導を実施したほか、高齢運転者対策を強化するなど、高齢者の交通安全対策を推進した。



#### 〈協働の成果〉

高齢者が利用することの多い理髪店等の施設、バス・タクシー会社等の関係機関・団体等に呼び掛けて、高齢者を交通事故から守るため、「交通安全ひと言運動」を実践していただくなど、協働の取組により、交通安全意識の高揚と地域社会総ぐるみによる交通事故防止気運を盛り上げた。



#### (参考数値)

	H18	H19	増減
シルバー・セーフティ・サポート事業による交通安全教育受講者数	165,189	150,400	△ 14,789
高齢者の交通事故死者数	70	58	△ 12

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 振り込め詐欺対策の推進

平成19年中の振り込め詐欺の被害総額は6億9,460万円(前年比+51.4%)と大幅に増加するなど、次々と新たな手口が現れ犯行がより巧妙化しており、捜査態勢を強化して積極的な取締りを行うとともに、関係機関・団体と協働した被害防止に向けたさらなる取組が必要である。

#### ○ 高齢者交通安全対策の推進

高齢者の交通事故死者数は前年に比べて12人減少したものの、全死者に占める高齢者の割合は50.4%と過去最高を記録しており、高齢者交通安全対策や交通安全意識の高揚に向けた地域社会総ぐるみの対策を更に強力に推進していく必要がある。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、刑法犯認知件数は5年連続、交通事故死者数は4年連続、交通事故負傷者数は2年連続でそれぞれ減少し、交通事故死者数については目標水準に達するなど、順調に推移している。

街頭犯罪等抑止総合対策をはじめとした犯罪の検挙・抑止活動や高齢者対策に重点を指向した交通安全対策等も効果的に実施されているほか、県民主体の自主防犯活動や交通安全意識の高揚に向けた活動も活性化が図られており、取り組むべき課題はあるものの、目標の達成が十分見込まれる水準と考えられる。

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
4					
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	203
担当部局	総務部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	災害対策・危機管理プログラム
プログラムの概要	風水害、地震等の自然災害や大規模な事故、さらにはテロ等の危機への十分な備えを講ずるため、災害に強い地域づくりとともに、生活物資等の供給体制、的確な情報提供等の危機管理体制の整備を進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
ITを活用した緊急防災情報提供システムの加入者数	人	0	40,000	4,557						
(指標の説明) 防災情報を県民の携帯電話などにメール配信し、災害への適切な対応を目指すもの										
堤防等の整備により高潮被害が解消された戸数	戸	9,559	18,500	13,315						
(指標の説明) 高潮対策事業の進展により高潮被害が解消される戸数の増加を示すもの										
耐震化した重要橋梁の割合	%	28	100	67						
(指標の説明) 緊急輸送道路等の橋梁の耐震化を目指すもの										
県立学校の耐震化率	%	48.2	65.0	55.4						
(指標の説明) 生徒等の安全・安心の確保、災害発生時の地域住民の避難場所として、安全性の向上を目指すもの										
住宅の耐震化率	%	67	75	69						
(指標の説明) 地震による人的被害及び経済的被害の軽減を目指すもの										
河川改修により洪水被害が解消された戸数	戸	46,000	58,800	48,800						
(指標の説明) 河川改修により洪水被害の解消される戸数の増加を目指すもの										
区域指定等により土砂災害の避難体制が整った箇所数	箇所	—	5,500	1,781						
(指標の説明) 土砂災害発生のおそれのある箇所を明らかにし、市町村による避難体制の整備を促進するもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

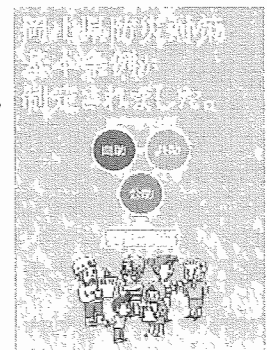
### ○ 防災・危機管理の体制及び基盤の整備

災害に迅速かつ的確な対応ができるよう、防災・危機管理体制を整備した。

- ・ 24時間対応可能な防災・危機管理体制の整備
- ・ 災害に強い防災情報ネットワークの構築

### < 協働の成果 >

- ・ 岡山県防災対策基本条例の制定  
制定検討委員会への公募委員の参画や県民との意見交換会など、県民と協働しながら、条例の制定を行った。
- ・ 国際救援活動の推進  
ペルー沖地震の際、公設国際貢献大学校が設置したももたろう国際救援隊と連携し、被災地にシュラフや貯水用タンクを提供した。



国際救援物資備蓄事業参加数(人・団体)	H18	H19	増減
	935	1,113	178

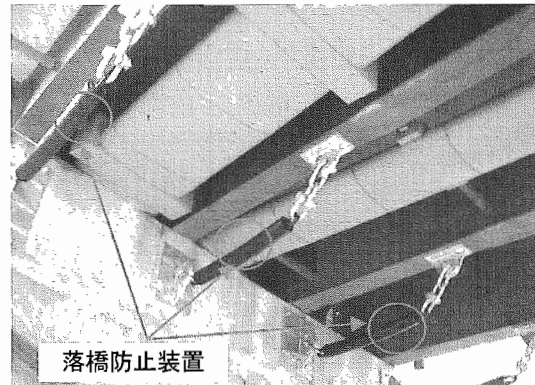
### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ○ 東南海・南海地震などの対策強化

大規模地震発生時に支援物資の輸送、救急活動などが迅速かつ円滑に実施できるよう、一次緊急輸送道路上の橋梁など重要橋梁の耐震化等、地震災害の被害を軽減するためのハード整備を進めるとともに、防災知識の普及啓発等に取り組んだ。

- ・ 津波の遡上アニメーション、地震のイメージ映像等の啓発用DVDの作成・配付
- ・ 一次緊急輸送道路上の橋梁など重要橋梁の耐震化

耐震化した重要橋梁(累計数)	H18	H19	増減
	55	72	17



落橋防止装置  
県道和气停車場線 金剛橋 落橋防止工事(H19年度施工)

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ わかりやすい防災情報の提供

ハザードマップの作成促進や防災情報のメール配信サービスの普及、地上デジタル放送との連携など、県民が緊急防災情報を入手しやすい環境づくりに取り組む。

#### ○ 防災対策の推進

風水害や地震をはじめとする災害の被害を軽減するためのハード整備を計画的に進めていくとともに、建築物の所有者等への防災対策意識の啓発に取り組む。

### 5 総合評価

- ・ 風水害や地震をはじめとする災害の被害を軽減するため、重点箇所を中心に計画的にハード整備を進め、目標水準を満たす整備を行うことができた。
- ・ 24時間体制の整備や災害に強い防災情報ネットワークの構築など防災・危機管理体制の充実・強化を行った。しかし、メール配信サービスの登録者数が低い伸びにとどまるなどの情報発信の面では、目標水準を下回った結果となった。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	204
担当部局	総務部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	自主防災プログラム
プログラムの概要	自分たちのまちは自分たちで守るという防災まちづくりを進めるため、様々な災害の発生に備えて、県民、ボランティア、各種団体、企業等が活動できる自主防災組織や災害ボランティアの人材育成、活動支援等を行います。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
事業所との災害時協力協定締結数	団体	119	250	241					
(指標の説明)県・市町村と事業所との災害時協力協定締結団体の増加を目指すもの									
自主防災組織率	%	44	70	47					
(指標の説明)地域防災の担い手である自主防災組織の増加を目指すもの									
防災士の数	人	35	350	331					
(指標の説明)地域防災力向上のための活動が期待される防災士の認定者数の増加を目指すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

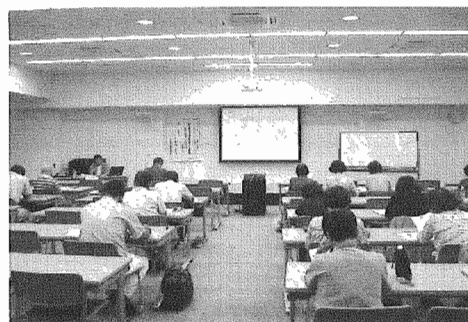
### ○災害ボランティアの育成

災害救援専門ボランティアの登録を推進するとともに、ボランティア意識の向上及び専門的な技術のレベルアップのための研修を実施した。

- ・「岡山県災害救援専門ボランティア研修」の開催（研修回数：6回、参加者115人）

#### <協働の成果>

災害ボランティアコーディネーターをはじめ、介護、手話通訳など専門的な知識や技術を持つボランティアを、災害救援専門ボランティアとして登録した。



災害救援専門ボランティア登録数 (人)	H18	H19	増減
	1,155	1,201	46

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ○ 自主防災組織の設置促進・育成

市町村が補助する町内会や自主防災組織への防災資機材の整備等を支援し、地域防災力の中核となる自主防災組織の設置促進及び活動活性化を図った。

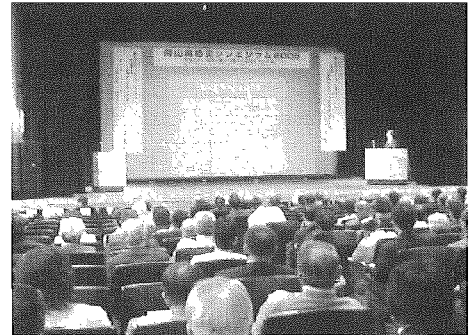
- ・ 自主防災組織の設置促進・活性化  
 新規設置自主防災組織数・・・229団体  
 自主防災組織補助市町村数・・・10市1町
- ・ 防災講座の実施(参加者:760人)

自主防災組織数 (団体)	H18	H19	増減
	2237	2466	229

#### <協働の成果>

自主防災組織、NPO団体、防災士などの防災リーダーを対象に地域防災リーダー研修会や防災講座を開催し、地域における防災リーダーの育成を図った。

リーダー研修会参加者:約250人  
 防災講座参加者:760人



### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 災害ボランティアの育成

災害発生時の対応を強化するため、災害救援専門ボランティアの登録数をさらに増やす必要がある。

#### ○ 自主防災組織の設置促進・育成

地域の防災活動に大きな役割を果たす自主防災組織の設置促進や活性化を図るため、その防災資機材の整備や防災士の資格取得等を支援する市町村に対して助成を行う。特に、自主防災組織率の低い市町村を対象に、重点的に防災講座、講演・研修会等を行い、自主防災組織の設置促進を図る。

### 5 総合評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種研修会や市町村等への支援を行い、地域防災力の強化に取り組んだ結果、災害時協力協定事業所や防災士が大幅に増加した。            また、災害ボランティアの登録や養成も成果が出るとともに、ロードサポーターの協力により、道路の維持管理も早期対応ができています。</li> <li>・ しかし、自主防災組織数は、229団体増えたものの組織率は47%と低い伸びにとどまっており、今後も自主防災組織率の低い市町村等に対し、重点的に設置促進を働きかけていく必要がある。</li> </ul>	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
	3				
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	205
担当部局	保健福祉部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	健康・医療プログラム
プログラムの概要	県民が健康でいきいきとした生活を送れるよう、健康づくりの支援等を行うとともに、質の高い医療サービスが受けられるよう、患者への情報提供や医療機関の連携等を進めます。さらに、食の安全・安心の確保及び食育の推進を推進します。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
65歳時の健康寿命 (平均自立期間) <男性>	年	15.8	16.4	—						
<女性>	年	18.2	19.0							
(指標の説明)県民の健康づくりとそれを支える医療体制等がどの程度進んでいるかを表すもの										
患者からの医療安全 相談等に応じる体制 を備えた病院の割合	%	74	100	78						
(指標の説明)県内の病院が、自主的かつ積極的に医療の安全と安心の構築に取り組む一環として、設置を進めるもの										
栄養成分表示の店登 録施設数	施設	543	700	695						
(指標の説明)県民の健康づくりの意識(特に栄養・食生活分野)がどの程度進んでいるかを表すもの										
禁煙・完全分煙実施 施設認定数	施設	730	900	1,119						
(指標の説明)県民の健康づくりの意識(特にたばこ分野)がどの程度進んでいるかを表すもの										

## 3 代表的な取組(I)

### 難病医療ネットワークの充実

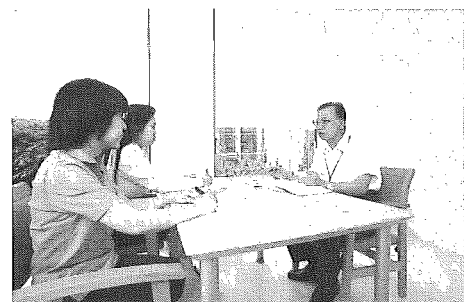
難病相談の専門的拠点施設である「岡山県難病相談・支援センター」において、在宅難病患者とその家族に対する相談支援等を実施した。特に19年度からは、就労支援に係る相談員及びアドバイザーを新たに配置し、難病患者の方の就労に向けた各種サポートを行うなど全国的にも先進的な取組を実施した。その結果、6件の正規就労を含め18件の就労に結びついた。

#### 〈協働の成果〉

講演会や交流会等における患者団体、医療機関との連携、就労支援における患者団体からのアドバイザー就任や医療機関、企業、ハローワーク等との連携などが図られた。

#### (参考数値)

相談件数(件)	H18	H19	増減
	1,152	1,215	63
就労件数(件)	H18	H19	増減
	—	18	18



【センターでの相談】



【患者・家族のつどい】



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 食の安全・安心に係るリスクコミュニケーションの推進

県民が食への関心を高め、食の正しい知識や情報を習得することを目的として、岡山の食を問う検定「晴れの国おかやまの食」を実施したところ、多くの県民の参加が得られた。

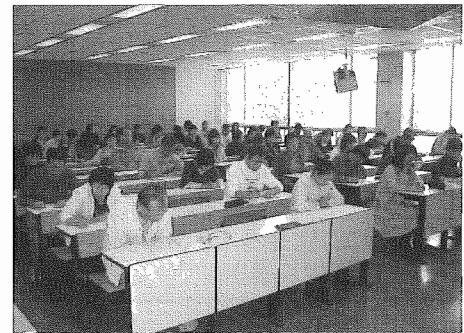
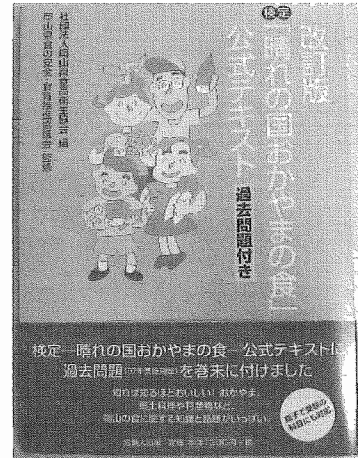
#### 〈協働の成果〉

岡山県食の安全・食育推進協議会、(社)岡山県食品衛生協会と協働して、公式テキストの出版や検定問題作成等を行い検定を実施することにより、県民の食への関心を高めるとともに、合格者の中からリスクコミュニケーション87名の養成が図られた。

#### (参考数値)

検定受検者数 (人)	H18	H19	増減
	—	550	550

リスクコミュニケーション: 食品の摂取によって人の健康に悪影響が起きるリスク(危険性)について、情報交換や意見交換により、消費者と生産者・加工業者等が相互に理解を図ること。



【検定「晴れの国おかやまの食」】

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○医師確保体制の構築

地域や診療科による医師の偏在の解消が課題となっており、岡山県医療対策協議会において定めた指針である「これからの医師確保と医療提供体制の構築について」に沿って、引き続き、医師確保のための総合対策に取り組んでいく。

#### ○食の安全・安心確保の充実

県民の食に対する信頼の確保が課題となっており、輸入食品等の食品検査の強化を図るとともに、食品の安全性・危険性に関する正しい知識を普及するため、食に関するリスクコミュニケーションの更なる推進に取り組む。

### 5 総合評価

県民、事業者、関係団体、関係機関、市町村等の連携により、健康づくりの環境整備や医療提供体制の整備が計画的かつ着実に推進できた。また、消費者である県民、生産・加工・販売など食品関係事業者や関係団体、地域等との連携により、食の安全・安心の確保と食育の推進が図られた。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					
5	目標水準を大きく上回った				
4	目標水準を上回った				
3	概ね目標水準				
2	目標水準を下回った				
1	目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	206
担当部局	保健福祉課

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	福祉プログラム
プログラムの概要	障害者が地域で共生する社会の形成を目指し、ボランティアの育成や自立した地域生活を支える基盤の充実等を図ります。また、高齢者が健康でいきいきと活躍でき、家庭や地域で、安心して安全に自立した生活ができる環境の整備に取り組みます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
グループホーム・ケアホーム数(障害者)	箇所	137	290	172					
(指標の説明)障害者が、施設入院・入所から地域へ移行していくための受け皿の充足度を表すもの									
小規模多機能型居宅介護事業所数	箇所	10	140	42					
(指標の説明)認知症などの介護を要する高齢者が可能な限り自宅や地域で暮らすことができるよう支援するサービスがどの程度整備されているかを表すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 障害者の地域生活を支える基盤の充実

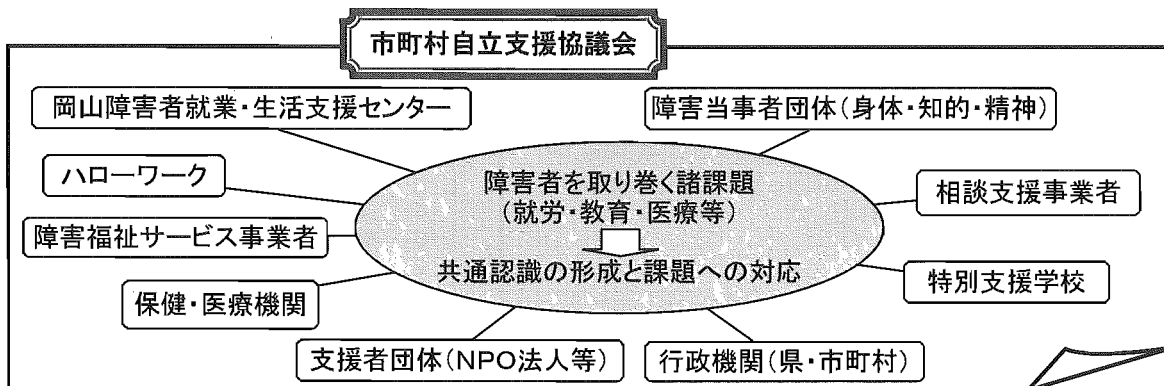
地域での居住の場であるグループホーム・ケアホームの整備を促進するとともに、市町村、サービス事業所等で障害者の地域生活を支援する相談支援従事者に対する研修を実施し、その能力向上に取り組んだ。また、精神障害者が住み慣れた地域で安心した生活を維持・継続できるよう、様々な職種の専門家で構成するチームが包括的支援を提供する「ACTおかやま事業」を実施した。

### 〈協働の成果〉

個別の相談支援をバックアップする市町村自立支援協議会において、支援者団体や障害福祉サービス事業者等と連携して、地域生活を支える体制の整備・充実が図られた。

(参考数値)

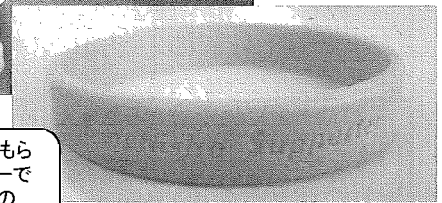
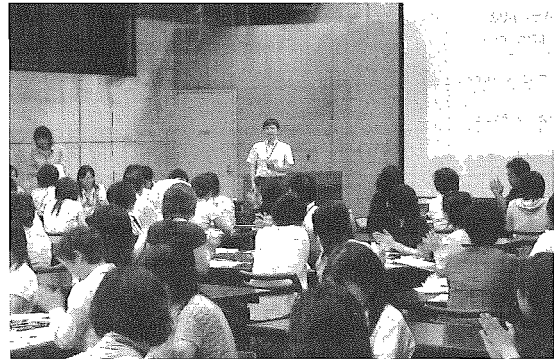
相談支援従事者 初任者研修 受講者数(人)	H18 (初年度)	H19	合計
	449	202	651



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 認知症高齢者支援の充実

認知症の人々が安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を正しく理解し認知症の人や家族を応援する「認知症サポーター」を平成21年度までに県内で2万人(全国で100万人)養成するため、養成講座で講師となるキャラバン・メイトを養成するための研修を開催した。(養成目標:平成19年度から21年度までの3年間で150人)また、認知症医療に関する技術的援助を行う認知症専門技術センターや、高齢者虐待防止や権利擁護に関する法律相談窓口を設置し、住民からの相談等に対応する市町村を支援した。



#### 〈協働の成果〉

認知症サポーターについては、市町村がキャラバン・メイトと連携して養成講座を随時開催し、19年度末までに約3千人が養成されている。

#### (参考数値)

キャラバン・メイト養成人数(人)	H18	H19	増減
	0	94	94

オレンジリング(ブレスレット)を腕に付けてもらい、認知症の人や家族へ認知症サポーターであるという目印として、また、サポーター間のネットワークづくりに役立っています。

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○障害者の就業環境の整備充実

障害者の地域生活基盤をより充実させるため、授産施設等の工賃水準の引き上げを目的とする岡山県工賃倍増5か年計画を推進するとともに、就労支援員の養成や障害者就業・支援センターの運営により、障害者の就労移行の促進に努める。

#### ○地域包括支援システムと総合的介護予防システムの構築

高齢者の地域での生活を支える地域包括支援システムや総合的介護予防システムの構築を図るためには、その中核機関となる市町村地域包括支援センターの機能を更に強化する必要があり、アドバイザーの派遣や技術的助言、情報提供等を行い、システム構築を通じた「まちづくり」への取組を支援する。

### 5 総合評価

	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
関係団体や市町村等との連携により、障害者の地域の居住の場であるグループホーム等の着実な整備や高齢者の地域生活を支援する地域包括支援センターの機能強化が図られるなど、障害者や高齢者の自立した地域生活を支える環境整備について推進が図れた。	3				
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	207
担当部局	企画振興部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	ユニバーサルデザイン(UD)プログラム
プログラムの概要	年齢、性別、能力、国籍等にかかわらず、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指して、ユニバーサルデザインの考え方を県全域へ浸透させるとともに、すべての人が、安全・安心で生活しやすく、活動しやすい快適なまちづくりを進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
UDサポーターの数	人	8,700	16,000	15,300					
(指標の説明)UDの考え方に賛同し、UD推進に主体的に参加する人の増加を目指すもの									
UDIに配慮した駅の数	駅	13	18	13					
(指標の説明)利用者が5,000人/日以上全ての駅をUD化することを目指すもの									
バリアフリー化された公共的施設の数	施設	993	2,000	1,364					
(指標の説明)福祉のまちづくり条例に基づく届出・協議により、バリアフリー化された公共的施設の増加を目指すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 「UDマインドの定着化」

県庁を挙げてのUD推進のための推進本部や産学官民のネットワーク及び有識者等によるアドバイザー会議など、全県的な推進体制のもとで、セミナーやシンポジウム、出前講座、体験事業等の各種普及啓発事業を幅広く展開して県内全域へのUDの考え方の浸透に努めた。

#### <協働の成果>

平成19年7月、UD普及啓発の拠点として「UDほっとステーションおかやま」をNPOと協働して設置・運営し、多くの県民の方が気軽にUDに触れることができる機会を継続して提供したほか、その他の普及啓発事業もNPOと協働して展開し、UDの考え方に賛同し、UD推進に主体的に参加する県民である「UDサポーター」を多数養成した。



UDほっとステーションおかやま  
(岡山市石関町)



展示コーナー

(参考数値)

「UDほっとステーションおかやま」の利用者数(人)	H18	H19	増減
	0	2,700	2,700

3 代表的な取組(Ⅱ)

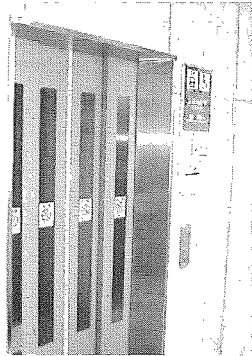
「UDの導入による公共交通機関の利便性の向上」

公共交通機関の利便性の向上を図るため、JR高島駅のエレベーター、多機能トイレ等の設置事業に対する助成を行った。平成20年5月に使用を開始し、これによりUDに配慮した駅の数が増加した。

また、ノンステップバス導入やICカード導入に対する助成を行い、公共交通機関の利便性の向上を図った。

<協働の成果>

各公共交通事業者並びに市町村等と連携し、UDに配慮した交通関係施設整備の促進やバス等公共交通機関の利便性の向上を図った。



JR高島駅エレベーター



バスICカード読取機

4 取り組むべき課題と対応方針

○UDマインドの定着化

「UDほっとステーションおかやま」の効率的な活用努めるとともに、県全域において広く県民にUDの考え方が浸透・定着するよう、引き続き出前講座等の啓発事業に積極的に取り組む。

○誰もが暮らしやすいUD社会の実現

誰にとっても便利で使いやすいまちづくり、もの(製品)づくりの推進や情報・サービスの提供に取組み、生活のあらゆる面で利便性が高い「すべての人にとって暮らしやすいおかやまづくり」を目指す。

5 総合評価

各重点施策や事業の取組により、ユニバーサルデザインの浸透・定着が着実に図られており、一定の水準は確保できていると考える。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	208
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	水と緑プログラム
プログラムの概要	ふるさと岡山の美しい水と緑をかけがえのない財産として次代に引き継いでいくため、清流保全活動、児島湖の再生、瀬戸内海の環境保全等に取り組むとともに、多様で健全な森林整備、里山等の保全と活用を進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
ホテルの生息地箇所数	箇所	208	240	236						
(指標の説明)川の清流保全を推進することにより、ホテルの生息地箇所の増加を目指すもの										
森づくり活動への参加者数	人/年	4,837	7,000	7,444						
(指標の説明)森林の働きや大切さを啓発するため、指導的人材の養成や身近な里山林での活動支援などにより森づくり活動への参加者数の増加を目指すもの										
環境保全を活動目的とするNPO法人数	団体	103	190	132						
(指標の説明)活動目的に環境保全を挙げているNPO法人の認証数の増加を目指すもの										
児島湖の水質(COD)	mg/l	8.3	7.3	7.9						
(指標の説明)児島湖の再生を推進することにより、代表的水質である化学的酸素要求量の改善を目指すもの										
下水道や浄化槽等により生活排水処理ができる人口割合	%	63.3	75	68.7						
(指標の説明)下水道、集落排水、合併処理浄化槽により生活排水処理できる人口割合の増加を目指すもの										
海のゆりかご(藻場)の面積	ha	930	1,000	937.5						
(指標の説明)水産資源の回復や海域環境の改善のため、魚介類の成育や水質の浄化にとって重要な海のゆりかご(藻場)の回復を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

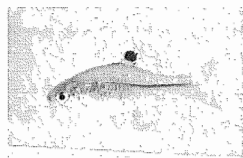
### 希少野生動植物の保護

国のレッドリストで絶滅危惧ⅠA類に指定されている淡水魚(スイゲンゼニタナゴ、アユモドキ)や、岡山県希少野生動植物保護条例において指定されている希少野生動植物※の保護を図るため、地域住民等の協力を得ながら、川掃除等による生息環境の整備や種まき等の増殖活動を行った。

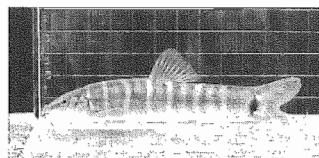
※条例指定希少野生動植物:4種(フサヒゲルリカミキリ、ミスアオイ、マルバノキ、エヒメヤメ)

### 〈協働の成果〉

スイゲンゼニタナゴやアユモドキの保護と外来生物の駆除を目的として「おさかな学習会」を実施するなど、地域の町内会・子供会、NPO団体やボランティア等、幅広い県民の協力のもと、希少な野生動植物の保護活動等を展開した。



スイゲンゼニタナゴ



アユモドキ

※ 全国でも本県内を中心とした地域のみが生息



おさかな学習会の開催(瀬戸内市、平成19年10月14日)

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 児島湖再生の推進

児島湖流域の環境保全を推進していくことを目的に、9月を「児島湖流域環境保全推進月間」と定め、県、国、流域市町、民間団体等が一体となり、流域住民の理解と協力のもとに県民運動として各種行事を実施している。19年度の主な結果は次のとおり。

- ① 児島湖流域清掃大作戦：9月2日に児島湖・流入河川11箇所において、児島湖流域環境保全推進協議会会員、住民、民間団体、学生、県・市町村職員等4,952人が一斉清掃を行い、計36tのごみを回収した。
- ② 児島湖流域環境保全ポスターコンクール：児島湖の環境保全に対する児童・生徒の理解を深めるため、5月中に流域の小学3年生～中学生からポスターを募集し、68の小・中学校から2,122点の応募作品があった。
- ③ 児島湖ふれあい環境フェア：児島湖流域の環境保全についての県民の意識と関心を深めるため、ポスターコンクール入賞者表彰式・環境保全啓発キャンペーンを、初めて下水道ふれあいデーの行事に併せて、9月8日に児島湖流域下水道浄化センターにおいて行うとともに、ポスター・パネル展を9月8日～17日にイオン倉敷において行った。

#### <協働の成果>

各種行事への参加について、流域内の住民や児島湖の環境保全に関心を持つ団体等へ呼びかけ、多数の参加が得られており、児島湖の環境保全についての意識と関心が得られている。



児島湖流域清掃大作戦

(参考数値)

児島湖流域清掃大作戦の参加者	H18	H19	増減
	3,837人	4,952人	1,115人

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○生物多様性の確保

希少動植物の保護活動を、「地域で守ろう貴重な動植物」をキャッチフレーズに、地元の町内会や学校、NPO団体、民間企業等、多くの県民の協力を得て積極的に展開する。また、外来生物について、「入れない、捨てない、拡げない」の原則のもとに、県民の理解を深めるための普及啓発等を行う。

#### ○瀬戸内海の環境の保全に関する施策の推進

瀬戸内海の水質は一定の改善後、横ばい傾向を示しているが、海ごみ問題のほか、藻場・干潟の保全や海砂利採取跡地の修復など浅海域に係る問題等について、瀬戸内海の環境の保全に関する岡山県計画に基づき施策を推進する必要がある。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、全ての指標で進捗(達成)率は概ね目標水準に達している。また、児島湖再生や瀬戸内海の再生・活用、清流保全の取組やクリーンライフ100構想に沿った効率的な下水処理施設の整備、里山ふれあいの森づくりの推進や希少野生動物の保護活動、自然環境学習の推進など、重点施策・事業への取組も一定の水準は確保できていると考える。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った					

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	209
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	地球環境プログラム
プログラムの概要	地球環境問題に対する身近な取組として、省エネ・省資源、グリーン購入等、県民の自主的な環境保全活動を促進するとともに、循環型産業システムの構築、クリーンなエネルギーの導入、温室効果ガスの吸収源対策等を進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
一人当たりゴミの排出量	g/日	1,033	1,005	1,003						
(指標の説明)各家庭や事業所から排出される一般廃棄物の削減を目指すもの										
アースキーパーメンバーシップ登録会員数	人・団体	5,042	10,000	6,972						
(指標の説明)地球温暖化防止のため、自ら環境への影響を減らす取組を継続的に行う人たちの会員登録数の増加を目指すもの										
産業廃棄物のリサイクル率	%	49.2	50.1	47.1						
(指標の説明)循環型社会の形成のため、産業廃棄物のリサイクル率の向上を目指すもの										
公共施設及び民間事業所における太陽光発電による総出力電力	kw	3,488	7,000	5,980						
(指標の説明)県内の公共施設及び民間事業所に設置された太陽光発電設備(10kW以上)の出力電力の増加を目指すもの										
岡山エコ事業所の認定件数	件	189	250	218						
(指標の説明)グリーン調達やゼロエミッションに積極的に取り組む環境にやさしい県内事業所の増加を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### アースキーパーメンバーシップ推進事業

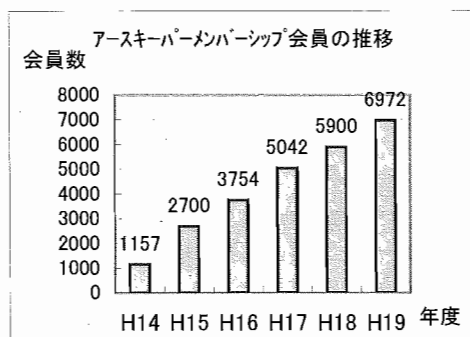
アースキーパーメンバーシップ会員の積極的な取組の推進と制度の周知を図るため、地球温暖化防止活動推進センターと協力し、普及啓発事業として「アースキーパー親子学習会」や「アースキーパーメンバーシップ会員のつどい」を開催した。

#### <協働の成果>

地球温暖化防止のため、県民・事業者による、環境への影響を減らす活動への主体的取組が着実に広がっている。



親子学習会





### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 循環型社会づくりの推進

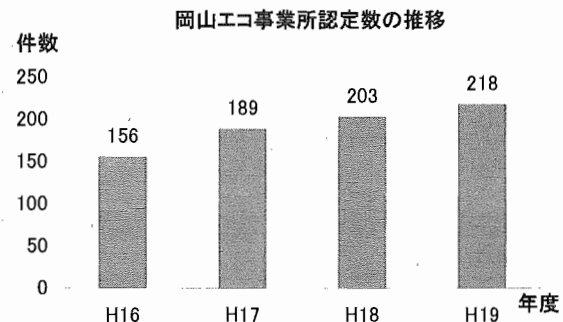
「おかやま・もったいない運動」として「推進フォーラム」の開催や小中学生を対象とした「もったいない・ごみゼロコンテスト」の他「おかやま・もったいない川柳コンテスト」などを通じて、もったいない精神を普及し、県民一人ひとりのライフスタイルに3R(リデュース、リユース、リサイクル)が定着するよう努めた。また、岡山県エコ製品の認定・普及により再生品の使用促進を図るとともに、ゼロエミッションに取り組む事業所などを岡山エコ事業所として認定・普及することにより、環境にやさしい企業づくりを進めた。

#### <協働の成果>

「おかやま・もったいない運動」の各事業については、事業者・NPO・各種団体等で構成する「岡山県ごみゼロ社会推進会議」と協働で実施しており、県民各層に「もったいない精神」が浸透しつつある。



「おかやま・もったいない」晴れの国フォーラム



### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○省エネルギービジョンに基づく取組の推進

地球温暖化防止行動計画を着実に推進するため、省エネルギービジョンに位置付けた施策・重点プロジェクトについて、県民、各種団体、企業及び市町村と協働・連携して取り組む必要がある。

#### ○事業者の資源循環の取組の推進

産業廃棄物の排出量は減少傾向にあり、リデュース、リユースは進みつつあると考えられるが、リサイクル率は向上していない。これは、汚泥等リサイクルしにくい廃棄物の排出量が増加していることが主な原因であるので、再資源化のための研究や資源循環に取り組む事業者への支援を行うとともに、未利用資源の有効利用を図るための情報提供や商談会の開催等を行う。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、一部の指標を除き、進捗(達成)率は目標水準を上回っている。重点施策の取組については、アースキーパーメンバーシップ制度の積極的な展開をはじめ、企業や地域での地球温暖化対策の一層の推進を図るとともに、エコドライブの推進によるCO<sub>2</sub>削減、有害化学物質やアスベスト対策などにより、環境保全の推進を図った。また、「おかやま・もったいない運動」等の各種取組により、県民生活や事業活動の中での3Rは進みつつある。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	210
担当部局	生活環境部

## 1 施策の概要

基本戦略	「安全・安心の岡山」の創造
戦略プログラム	都市・農村景観プログラム
プログラムの概要	潤いのある生活空間や優れた景観の創出と個性を生かしたまちづくりを推進するとともに、全国都市緑化おかやまフェアを平成21年に開催します。また、中山間地域等の美しい田園景観の保全など、自然と調和した農山漁村づくりに努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
景観形成に重点的に取り組んでいる地区等の数	箇所	7	15	7					
(指標の説明)県、市町村が景観形成に重点的に取り組む地区を景観計画等に位置づけ、施策を推進するもの									
おかやまアダプト参加人数	人/年	27,000	40,000	33,980					
(指標の説明)県管理の道路、河川等の定期的な清掃、緑化活動等を行う「おかやまアダプト事業」への参加者数の増加を目指すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 「晴れの国おかやま景観計画」の策定

良好な景観の形成を進めるための指針として、19年9月に景観法に基づく「晴れの国おかやま景観計画」を策定した。県民との協働、市町村の支援及び規制誘導を通じて、良好な景観の形成に取り組むこととしている。

### 市町村の景観計画策定を支援

景観計画策定に取り組む市町村と連絡会議を開催し、制度の疑問点の検討など情報交換を行った。

### <協働の成果>

県、岡山市、早島町がそれぞれ景観計画を策定し、建築物の新築等の事前届出・審査などを通じて景観形成に取り組んでいる。

### (参考数値)

	H18	H19	増減
景観計画策定済み団体数	0	3	3



<吹屋背景保全地区>



<吉備高原都市景観モデル地区>

3 代表的な取組(Ⅱ)

全国都市緑化おかやまフェアの開催準備

平成21年春の開催に向けて、18年度に策定した基本計画に基づき、19年度は会場整備、広報宣伝、行催事、交通輸送、植物調達・管理等の実施計画を策定した。

また、県内外のイベント参加によるPRや、園児が花を植えるなど各種キャンペーンの実施、1年前祭の開催などフェアの周知と開催気運の醸成を図るとともに、公的広報媒体等を利用して各種広報を実施した。

○みどりの日にまちを緑で飾るキャンペーン

5月4日のみどりの日に各家庭や、企業、学校などの玄関先や窓辺に緑を添えて、まちを花やみどりで飾り、小さな活動からまちの景観を変えていくためのキャンペーンを実施

○みんなの花だよりキャンペーン

岡山市西大寺地区の保育園、幼稚園を対象として、花の育成に必要な資材提供を行い、園児自らの手で花を植え、育てることの楽しさや喜びを体験する機会を与えるキャンペーンを実施

〈協働の成果〉

フェア会場の花壇の維持管理をしていただく花緑ボランティアリーダーを募集し、知識習得のための研修を実施した。また、岡山市西大寺地区の保育園、幼稚園の園児たちとの共同作業で、球根の植え付けを行った。子どもたちが育てた花は、会場及び会場周辺の飾り付けに使う予定としている。



〈花緑ボランティアリーダー〉



〈みんなの花だよりキャンペーン〉

4 取り組むべき課題と対応方針

○市町村景観計画の策定支援

市町村が景観行政団体となって景観計画を策定し、独自に景観施策を行っていくことを、景観法の制度や他市町村の状況を情報提供する等の方法で支援していく。

○全国都市緑化おかやまフェア全県展開と県民、市民協働

県民、市民協働のもと、全県展開を図りながら魅力あるフェアを開催するため、県民、市民をはじめ、市町村、学校、企業などに出展や催事、運営等への参加や協力を呼びかけていく必要がある。

5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況では、「景観形成に重点的に取り組んでいる地区等の数」は増減がなかったが、景観計画を策定する団体が増えてきていることから、今後、目標達成が見込まれる。

また、全国都市緑化おかやまフェア開催に向けた準備や「きれいで快適な生活空間の創造」に向けた県民との協働による落書き消去活動等が実施されるなど、重点施策等への取組も概ね目標水準であると考える。

プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った					

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	301
担当部局	産業労働部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	地域産業プログラム
プログラムの概要	活力ある本県産業の形成に向けて、元気な中小企業やオンリーワン企業を支援します。また、地域特性に応じた地場産業の活性化、水島コンビナートの国際競争力強化とともに、産業人材の育成に関係機関と連携して取り組みます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
経営革新に取り組む中小企業数	社	117	600 (5年間で)	143					
(指標の説明) 新商品や新サービスの開発等を行う経営革新計画の策定を目指すもの									
製造品出荷額等	億円/年	66,837	75,000	82,539					
(指標の説明) 県内製造業の出荷額等の状況									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ■経営革新による企業活力の向上

意欲ある中小企業が自らの創意・工夫を生かして行う経営革新の取組について、県が企業の経営革新計画を承認し、低利融資、税制の特例、補助金等の施策により積極的に支援した。

#### <経営革新大賞受賞企業>

模範となる実績を達成した企業に対し、経営革新大賞を授与し、取組の促進を図った。

○モリマシナリー株式会社(赤磐市)

新型タブレットプレス等の新商品を開発  
生産工程の合理化による事業基盤を確立

○わかば食品株式会社(倉敷市)

「味」へのこだわりによる差別化で、新規顧客を開拓

#### <協働の成果>

中小企業、産業振興財団・商工会議所等の支援機関、県が協働し計画策定及びフォローアップを推進。

(参考数値)

	H18	H19	増減
経営革新計画承認企業	159	143	△ 16



H20. 2. 5 経営革新大賞授賞式

#### 経営革新計画承認企業の内訳

##### 1 従業員規模別割合

従業員数	企業数(社)	割合(%)
1～9名	47	32.9
10～29名	62	43.3
30～99名	26	18.2
100名～	8	5.6
合計	143	100.0

##### 2 業種別割合

業種	企業数(社)	割合(%)
製造	61	42.6
建設	26	18.2
運輸・通信	7	4.9
卸売・小売	30	21.0
飲食・宿泊	1	0.7
サービス	16	11.2
その他産業	2	1.4
合計	143	100.0

3 代表的な取組(Ⅱ)

■ 水島コンビナートの国際競争力強化

水島工業地帯産学官懇談会での協議を受け、水島コンビナート競争力強化検討委員会において、産学官の連携のもとに立地企業同士がコンビナートの将来展望を共有し、コンビナートの競争力を強化するため「水島コンビナート国際競争力強化ビジョン」を19年11月に策定し、①物流、②エネルギー、③保安、④環境、⑤リサイクル、⑥人材の6分野について、連携して取組を進めることとした。

～「アジア有数の競争力を持つコンビナート」を目指して～

◆基本方針◆

- 1 企業間連携と産学官連携による競争力強化
- 2 環境との共生
- 3 地域との共生



☆連携して取り組む6分野☆

- ① 物流分野
  - ・港湾施設の機能強化
  - ・陸上物流インフラの充実など
- ② エネルギー分野
  - ・エネルギーの融通・共有化など
- ③ 保安分野
  - ・保安防災情報と技術の共有化
  - ・設備レイアウトに係る効果的安全措置
- ④ 環境分野
  - ・環境関連技術の共有化
  - ・環境関連制度の効果的運用など
- ⑤ リサイクル分野
  - ・廃棄物の情報共有・共同輸送
- ⑥ 人材分野
  - ・人材育成事業の充実

<協働の成果>

企業間連携や産学官連携により、設備投資や、インフラの整備、適切な環境・安全対策の在り方等の検討が進んでいる。

(参考数値)

水島工業地帯の 製造品出荷額 (億円)	H18	H19	増減
	43,858	39,700 (速報値)	△4,158 (△9.5%)

4 取り組むべき課題と対応方針

○ 元気な中小企業の支援

原油・原材料価格の高騰や、建築基準法改正の影響などにより、中小企業の業況は悪化しており、経営体質の強化が必要である。そのため、独自の技術や製品をもつオンリーワン企業を育成するとともに、新分野への進出や新たな受注先開拓などの経営革新を支援し、フォローアップの充実にも努める。

○ 地域産業の活性化

近年、東アジアの需要拡大等により、水島地域を中心に製造業の製品出荷額等は高水準で推移しているが、地域産業が幅広く活性化することが必要である。全国有数の地域産業である繊維産業の活性化施策をはじめ、海外を視野に入れた産業の振興と交流の推進に向けた施策に、取り組んでいくことが求められる。

○ 産業人材の育成

産業人材の確保・育成に関する課題、企業のニーズ等の把握が十分でないため、引き続き岡山県産業人材育成コンソーシアム等との協議を通じ課題等の解決を図る必要がある。

5 総合評価

夢づくり協働指標の平成19年度の進捗状況は、いずれの指標も好調であった。

産学官の連携による、「繊維産業ルネサンスフォーラム」の開催や「水島コンビナート国際競争力強化ビジョン」の策定、新商品や新サービスの開発等を行う経営革新計画の承認による意欲ある中小企業の新事業展開や経営の向上への支援や広域受注開拓のため県内外で行う商談会等や商店街づくりへの支援、地域産業を支える支援体制の確立等に取り組んでいる。

プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					
5	目標水準を大きく上回った				
4	目標水準を上回った				
3	概ね目標水準				
2	目標水準を下回った				
1	目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	302
担当部局	産業労働部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	新産業プログラム
プログラムの概要	本県の経済を支える新しい産業基軸の構築を目指し、ものづくり重点4分野(超精密生産技術、バイオ、医療・福祉・健康、環境)を中心として、産学官連携により、新製品・新技術を生み出す岡山版産業クラスターの形成を一層推進するとともに、力強いベンチャー企業の育成に取り組みます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
岡山版産業クラスターで開発された製品の数	件	90	235	129						
(指標の説明)産学官連携組織(産業クラスター)での新製品・新技術の開発を目指すもの										
大学発ベンチャー企業数	社	23	35	32						
(指標の説明)ベンチャー企業の県内大学・高専の研究成果や特許等に基づく起業、又は大学等教職員・学生の人材移転による起業を目指すもの										

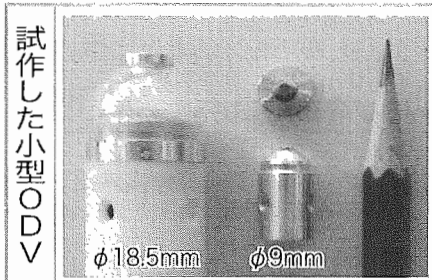
## 3 代表的な取組(I)

### ■マイクロものづくり産業クラスターの形成

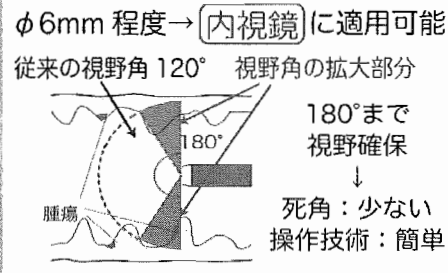
マイクロものづくり産業クラスターの形成に向けて、企業・大学・工業技術センター等の産学官連携による共同研究を進めるとともに、マイクロものづくりセンターを拠点に技術の高度化や技能伝承等を目的としたマイクロものづくり大学を開催し、多くの企業の皆様からご参加をいただいた。

＜産学官連携で取り組んでいる技術の例(全周撮像装置(ODV)の小型技術)＞

○工業技術センターの取組 → さらなる小型化



さらなる小型化



また、「マイクロものづくり岡山」のブランド化を図るとともに、マイクロものづくり企業の海外での販路開拓を支援するため、平成19年4月にドイツのハノーバーで開催された世界最大級の産業技術見本市「ハノーバー・メッセ2007」に、12社・2団体による「マイクロものづくり岡山」共同ブースを出展した。

＜協働の成果＞

企業、支援機関等が参画した「マイクロものづくり岡山推進協議会」の会員が拡充され、会員企業による製品開発も活発化するなど取組が本格化している。

＜ドイツ・ハノーバー・メッセ＞



(参考数値)

協議会	H18	H19	増減
会員数	177	193	16

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ■ベンチャーの発掘・育成

##### ○インキュベーション施設等による育成

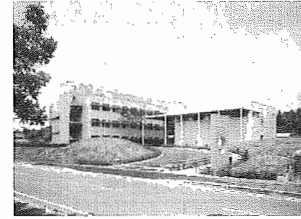
PFI方式により整備した岡山リサーチパークインキュベーションセンターにおいて、情報通信やものづくりの分野を中心に新規創業や新製品開発を目指すベンチャー企業等に対し、民間のノウハウを効果的に活用しながら専属のインキュベーションマネージャーがきめ細かい支援を行っており、高度な技術力や将来性により注目を集めつつあるベンチャー企業が育ちつつある。

##### ○事業PRや販売支援

起業を目指す人材の発掘や育成のために、ビジネスプランコンテストやセミナーを実施するとともに、有望な新製品、新サービスを持ちながら、営業人材や事業資金が不足するため伸び悩む創業・成長段階のベンチャー企業等に対し、ビジネスマッチングの場の提供や販路開拓、資金調達への支援を行っている。

#### <協働の成果>

起業者支援を行う関係機関が、協働しながら、効果的に創業促進・育成施策を実施している。



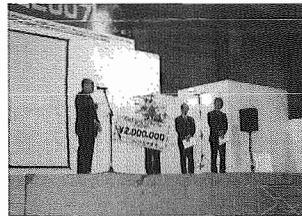
ORIC(岡山リサーチパークインキュベーションセンター)

#### (参考数値)

ORIC 入居企業分野 (H20.3現在)	分野	企業数
	情報通信	14
ものづくり	17	

#### (参考数値)

ORIC 延べ入居企業数	H18	H19	増減
	64	71	7



ベンチャープランコンテスト

- ・応募総数 34件
- ・最優秀賞 竹宮宏和氏  
「防振及び耐震用「複合体WIB工法」の開発と製造・販売」

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○岡山版産業クラスターの推進

岡山産学官連携センターの立ち上げなどにより産学官の連携は進みつつあるが、大学等研究者の研究シーズが製品開発や創業に結びつくよう取組強化を図るとともに、開発された製品や技術が販路拡大に結びつくよう、普及・啓発を行う必要がある。

#### ○ベンチャーの育成

より事業効果が高まるよう、ベンチャー企業の創業を支援する産業振興財団や地元経済団体等の連携をさらに密にするとともに、情報を共有し、効率的な支援を展開する必要がある。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の平成19年度の進捗状況は、いずれも好調であった。  
ものづくり重点4分野を中心とする産業クラスターの形成については、「ミクロものづくり岡山推進協議会」、「おかやま食品産業クラスター協議会」、「ハートフルビジネスおかやま」、「メディカルテクノ岡山」、「循環資源活用推進研究会」等の産学官連携組織を母体に新産業構築に向けた活動を展開し、また新技術・新製品の開発等への支援も進んでいる。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
3				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	303
担当部局	産業労働部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	戦略的企業立地プログラム
プログラムの概要	陸海空の広域交通ネットワークの整備を推進するとともに、マイクロものづくり分野をはじめとする企業をターゲットにするなど、次代の成長産業を見据えた戦略的な誘致活動を進めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
企業立地件数	件	24	150 (5年間で)	35					
(指標の説明)県内への企業立地促進を目指すもの									
国際航空貨物量	トン/年	471	5,000	1,679					
(指標の説明)国際航空貨物輸送力の強化を目指すとともに岡山空港の利用促進を目指すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ■ 産学官の連携

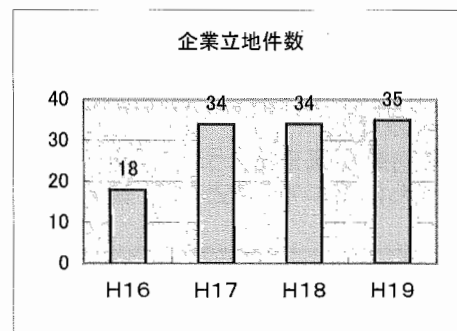
岡山県企業誘致推進協議会や企業誘致アドバイザーと連携し、そのノウハウや人的ネットワークを活用しながら、ターゲットとする分野の企業における設備投資情報等の収集を図るとともに、収集した情報に基づいて、産学官の協働による企業誘致活動を展開している。

### <協働の成果>

経済団体、金融機関、学術研究機関等23団体で構成する岡山県企業誘致推進協議会を設けるとともに、各会員団体から企業誘致アドバイザーを推薦いただき(157名)、産学官連携のもとに、企業情報の収集や誘致の働きかけを行っている。

(参考数値)

	H18	H19	増減
企業誘致アドバイザーの数	138名	157名	19





### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ■ 分譲用地の確保

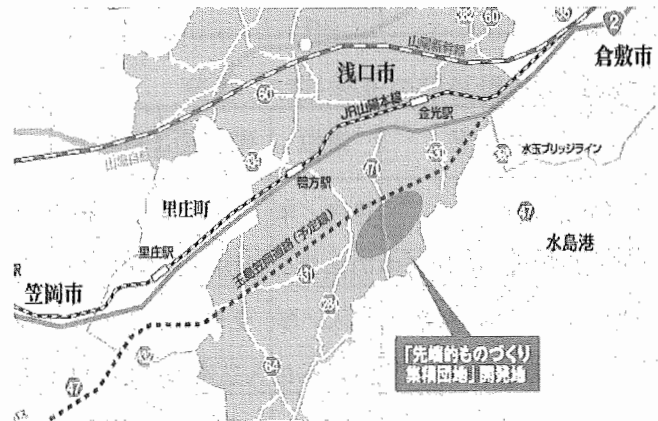
近年の好調な企業立地によって、特に県南内陸部においては企業用地が不足してきているため、浅口市の「先端的ものづくり集積団地」の整備を支援するとともに、分譲可能な民有地情報を集め、提供した。

#### 〈協働の成果〉

- 1 団地整備は市町村が実情に応じて造成し、県は造成に向けた手続面での支援、分譲に向けたPR・誘致面での支援を行った。

特に浅口市に対しては、技術職員の派遣や各種手続等の支援を行うとともに、企業訪問時やフォーラム開催時などの機会に団地のPRに努めた。

- 2 市町村との連携を密にし、市町村の把握している民間の遊休地、工場跡地等の情報を収集し、企業に対して提供した。



### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○大型企業誘致の実現

ここ数年、県内への企業立地は好調に推移しているが、大型企業誘致は実現していないことから、企業の設備投資計画に係る情報収集力の強化等に努め、効果的な企業誘致活動の展開を図っていく。

#### ○企業用地の確保

近年の好調な企業立地によって、県南内陸部においては企業用地が不足してきていることから、先端的ものづくり集積団地をはじめ、意欲ある市町村の取組を支援するとともに、空き工場等の民有地について、市町村と連携して情報収集を図り、企業用地の確保に努める必要がある。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の平成19年度の進捗状況は、好調であった。

産学官連携のもと、ターゲットを絞って企業誘致活動を推進してきた結果、企業用地が減少する中で、県内への企業立地件数が35件となるなど、目標水準を上回っており、また、立地企業に対するアフターフォローの継続的实施などにより、効果的な立地を進めている。

プログラム達成レベル				
H19	H20	H21	H22	H23
4				
5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	304
担当部局	産業労働部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	観光プログラム
プログラムの概要	国内外から多くの観光客が訪れるよう、「観光・岡山」のブランドを確立し、岡山の魅力の発信とともに、団塊世代や女性を意識した観光客誘致活動を展開します。また、おもてなしの推進などに努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
観光消費額	億円/年	1,416	1,530	1,483						
(指標の説明) 旅行中の消費の増加を目指すもの										
観光客入り込み数	万人/年	2,550	2,710	2,502						
(指標の説明) 観光施設等への入込客数の増加を目指すもの										
観光ボランティアガイドの数	人	560	700	628						
(指標の説明) 岡山県観光ボランティアガイド連絡会構成団体の会員数の増加を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### ■ インバウンド(海外入り込み客)の大幅な増加促進

上海市(中国)、高雄市(台湾)、釜山市(韓国)での国際観光展等へ出展し、県内観光地及び物産のPRを行った。また、韓国、中国、台湾など東アジア地域をターゲットに、近隣府県とも連携し、現地の旅行業者等を招請しての視察旅行や商談会を行い、旅行商品の造成を働きかけるなど、国により異なる観光ニーズを踏まえた誘致活動を行った。

### <協働の成果>

岡山空港において、海外チャーター便等の到着時に「岡山県外国人観光客受入協議会」とも連携し、外国人観光客に対し歓迎行事を行い、リピーター客の誘致に寄与することができた。



<空港での歓迎行事>

### (参考数値)

県内への外国人旅行者宿泊者数 (単位:千人)	H18	H19	増減
	42	61	19

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ■「観光・岡山」ブランドの確立のためのPR

本県を訪れる観光客が最も多い関西地域において、岡山の魅力を体感してもらうために、「観光・岡山ブランド」選定品目(食(おかやま黒まめ、地酒、あなご、黄にら))と岡山の旬の食材を組み合わせたメニュー(料理)を提供し、参加した者が口コミ発信の核となることによる、「観光・岡山」ブランドの浸透と岡山のイメージアップを図った。

また、食に関する雑誌へのタイアップ広告企画を掲載し、岡山のイメージアップを図った。

<「観光・岡山ブランド」のPR>



#### <協働の成果>

関係団体や市町村と連携のもと、「観光・岡山」ブランドのPRを図るとともに、「観光・岡山」ブランドの確立に向けた意識統一への取組を行った。



<メグミいっぱい岡山の味わう晩餐会>

(参考数値)

	H18	H19	増減
観光客入り込み客数(万人/年)	2,458	2,502	44

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○「地域発観光」の推進

地域の人々や民間の組織が中心になり「地域づくり」を通じて創造する「地域発観光」を推進し、誘客促進を図るため、観光関係者や県民意識の向上を図り、地域が主体的に取り組む新たな観光ルートの開発等に対し、積極的な支援を行う。

#### ○インバウンド(外国人観光客)の増加促進

国別の観光客の特徴を踏まえ、近隣府県とも連携し、積極的な誘客促進を進める。また、外国人観光客の満足度を高めるため、観光事業者との協働により受入体制の充実に努める。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の平成19年度の進捗状況は、観光入込客数が低調なものの、観光ボランティアガイド数や観光消費額については好調であった。

また、県内への外国人旅行者宿泊者数の大幅な増加への取組をはじめとして、情報発信や県民全体のおもてなし意識の向上を図る取組等についても実施している。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	305
担当部局	農林水産部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	農林水産業プログラム
プログラムの概要	農林水産業が将来にわたり持続的かつ安定的に発展するよう、意欲あふれる新規就農者等や力強い経営体の確保・育成を図るとともに、高品質な農林水産物の生産振興や「おかやまブランド」の形成、地産地消運動を推進します。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
新規就農者の数	人/年	99	110	114					
(指標の説明)担い手の減少や高齢化の進行に対処するため、新規就農者を年間110人確保するもの									
定年帰農者等の数	人/年	45	100	102					
(指標の説明)担い手の減少に対処するため、定年後に農業を専従で始める定年帰農者等を年間100人確保するもの									
認定農業者等の担い手数	経営体	3,372	3,600	3,437					
(指標の説明)効率的かつ安定的な農業経営体を確保するため、意欲と能力のある経営感覚に優れた認定農業者等を育成するもの									
有機無農薬農産物の生産量	トン/年	1,372	1,600	1,455					
(指標の説明)土づくりを基本として、農薬、化学肥料を使用せず生産された農産物の生産量									
おかやま次世代フルーツの栽培面積	ha	24	200	45					
(指標の説明)県が育成した期待の新品種である桃「おかやま夢白桃」、ぶどう「オーロラブラック」の栽培面積									

## 3 代表的な取組(I)

### 有機無農薬農産物の生産拡大

収益性の高い大規模経営体の育成を進めるとともに、新規栽培者の確保、生産技術の向上、実需者との連携支援のため研修会を開催し、有機無農薬農産物の生産拡大を推進した。また、販路の拡大・開拓のため、おかやま有機無農薬農産物を使った料理提供店の指定やフェアの開催等によりPR活動を行った。

#### <協働の成果>

生産者、市町村、関係団体、流通業者等が連携し、安全・安心なおかやま有機無農薬農産物の生産拡大、販路開拓等を推進している。

#### <料理提供店の指定>



#### <有機農業入門研修会>



(参考数値)

有機無農薬農産物取扱店の新規指定店舗数(店)	H18	H19	増減
	7	28	21

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 地産地消の推進

生産者と消費者の相互理解を深め、安全で安心な県産農林水産物の安定供給と消費拡大を図る「地産地消県民運動」に取り組んでいるが、地産地消が県民にとってさらに身近なものとなるように、生産者とスーパー、ホテル関係者等との地産地消商談会の開催、店頭での地産地消PR資材(「のぼり」、「店頭POP」)貸付などを通じて、スーパー等小売店やホテル等飲食店における地場産食材の利用促進に取り組んだ。

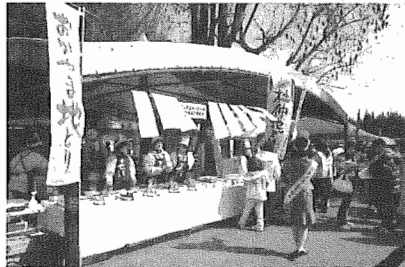
#### <協働の成果>

スーパー等事業者との協働推進の結果、地産地消のPRと販売を兼ねた地産地消常設コーナー設置店舗数が増加し、地産地消を県民がさらに身近に感じる場の提供につながっている。また、農林水産団体によるフェアの開催や体験学習の実施等により、地産地消の県民への浸透が図られた。

<常設コーナー設置店>



<動物園でのフェアの開催>



<つぼ網体験学習>



(参考数値)

地産地消常設コーナー設置店舗数(店)	H18	H19	増減
	46	59	13

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 農林水産物の生産振興と食料自給率の向上

今後、世界の食料需給はひっ迫・不安定化すると見込まれる中で、日本は食料の約6割を輸入に依存している。また、事故米穀の不正規流通など、食の安全・安心への対応が求められている。このため、引き続き安全・安心で高品質な県産農林水産物の生産振興に努めるとともに、首都圏をはじめとする県外市場への販路拡大、さらには自給飼料の増産などを通じ、本県農林水産業の活性化と併せ食料自給率の向上を図る。

#### ○ 担い手の確保・育成

農林水産業従事者の減少や高齢化の進行により、耕作放棄地の増加など農山漁村に様々な影響が懸念される。このため、農業・林業・畜産業における新規就業者の確保・育成に努めるとともに、意欲と能力のある経営感覚に優れた認定農業者はもとより、集落営農の組織化・法人化や企業の農業参入等を通じ、多様な担い手の確保・育成を図る。

### 5 総合評価

<p>夢づくり協働指標の達成状況では、年間で新規就農者を114人及び定年帰農者等を102人確保するとともに、認定農業者等の担い手が3,437経営体へと増加するなど、目標の達成に向けて順調に進んでいる。</p> <p>特に、県と地域、農業団体が組織するくだもの王国推進隊を中心として、本県の誇る白桃、ピオーネ、マスカット等の生産拡大と品質向上対策の推進により、ピオーネでは、単一品目として本県初の生産額100億円を達成するなど、着実な成果が出ており、引き続き、重点施策の着実な実施により、目標の達成が十分見込まれる水準と考える。</p>	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
4					
<p>5 目標水準を大きく上回った          4 目標水準を上回った          3 概ね目標水準          2 目標水準を下回った          1 目標水準を大きく下回った</p>					

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	306
担当部局	産業労働部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	就労プログラム
プログラムの概要	性別や年齢、障害などにとらわれず、適性に応じて働くことのできる多彩な就労環境を整備します。特に若者の就職支援に強力に取り組むほか、2007年問題に対応して団塊世代の就職を支援し、労働力の確保と技術・技能の伝承に努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
若者就職支援センターからの就職決定者数	人/年	535	680	685					
(指標の説明)おかも若者就職支援センターの就職支援による就職決定者の増加を目指すもの									
生産年齢人口の就業率	%	70.1	72	70.8					
(指標の説明)生産年齢人口(15~64歳)の就業の促進を目指すもの									

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 若年の就職支援

地域による若年者のためのワンストップサービスセンターとして、おかも若者就職支援センターでは、若年失業者やフリーター等を対象に、カウンセリングから職業紹介までの一貫した就業に関するサービスを提供している。また、ニートを対象に国のおかも地域若者サポートステーションと連携し、県では、保健・福祉、教育、青少年及び労働分野等の関係機関・団体が「おかも若者自立支援ネットワーク」を構築し、職業的自立支援を行っている。

#### 《平成19年度利用状況》

	来所者数	登録者数	就職決定者数
岡山センター	6,041	652	453
倉敷相談室	2,110	173	122
津山相談室	975	133	110
計	9,126	958	685

#### 〈協働の成果〉

センターでは、カウンセリング事業のほか、労働局や企業と連携して、就職面接会や企業見学会を開催している。

#### (参考数値)

	H18	H19	増減
センター新規登録者数	1,078	958	△ 120



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 障害者の就業支援

障害のある方がそれぞれの能力や適性に合った職に就き、自立・社会参加できるよう、障害者に対する就業面と生活面での一体的な支援を行う障害者・就業支援センターの拡充・強化を図るため、岡山・倉敷に加え、これまで手薄となっていた県北における障害者ニーズにも適切に対応できる様、平成19年度当該支援センターを津山にも設置した。

これにより、相談件数は大幅に増加するとともに、障害者の就職件数も着実に伸びた。

#### 〈協働の成果〉

福祉施設である当該3支援センターとの協働により、利用する障害者の生活支援から就業に至るまで、地域において一貫した支援を受けることが可能となった。

#### 障害者・就業支援センター利用状況

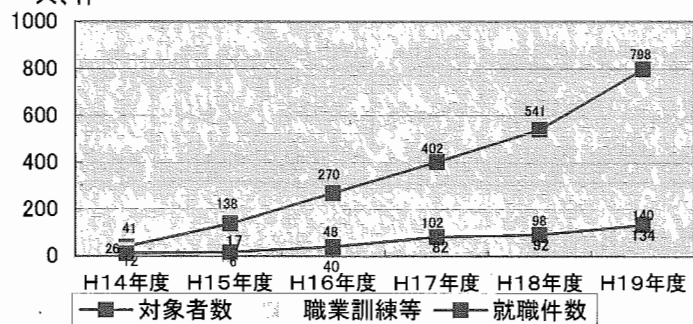
資料出处:岡山労働局職業対策課

区分	18年度計	19年度計	岡山	倉敷	津山
支援対象障害者数	541	798	412	297	89
支援・相談件数	11,291	16,253	6,752	8,628	873
訓練等の斡旋件数	98	140	69	49	22
就職件数	92	134	61	53	20

#### (参考数値)

	H18	H19	増減
就職件数	92	134	42

人、件 障害者・就業支援センター利用者の推移



### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 若者の就職支援

全国的に年長フリーター数は依然として高い水準にあり、ニート等の相談者数も増加しているため、職業的自立支援をさらに促進する必要がある。こうしたことから、おかやま若者就職支援センターによるきめ細やかな支援を進める必要がある。

#### ○ 障害者の就業支援

障害者の実雇用率、雇用率達成企業割合はいずれも全国平均は上回っているものの、実雇用率は法定雇用率(1.80%)を下回っている。このため、事業主に対する支援、障害者雇用に関する啓発等の取組を進める必要がある。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の平成19年度の進捗状況は、好調であった。

年長フリーターやニートなどへのきめ細やかなカウンセリングや団塊世代や高齢者への情報提供、また、国との連携のもと、多様な働き方が可能となる環境づくりの促進にも努め、さらに、障害者雇用については、体制を整備し、障害者の就職件数が着実に伸びている。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	307
担当部局	土木部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	交通基盤プログラム
プログラムの概要	人や物のグローバルな交流や移動を支え、国や地域相互の幅広い交流と連携、人々の日常生活や地域活動を支援するため、広域交通網等の交通基盤の整備を推進するとともに、空港や港湾等の利用促進に努めます。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
おかやまスタンダードによる国道・県道の整備割合	%	73	76	74.3					
(指標の説明)県内の道路整備が、どの程度進んでいるかを表すもの									
主要な渋滞箇所のうち渋滞が緩和された交差点の数	箇所	14	24	17					
(指標の説明)主要な渋滞箇所のうち交通容量拡大策の推進などによって、著しい渋滞が緩和された交差点の数									
岡山空港利用者数	千人/年	1,574	1,750	1,511					
(指標の説明)岡山空港の国内・国際定期路線とチャーター便の利用者合計で、利用者数の増加を目指すもの									
国際コンテナ取扱量	千トン/年	1,871	2,400	2,025					
(指標の説明)国際物流港湾として、水島港で輸出入されるコンテナ取扱量の増加を目指すもの									

## 3 代表的な取組(I)

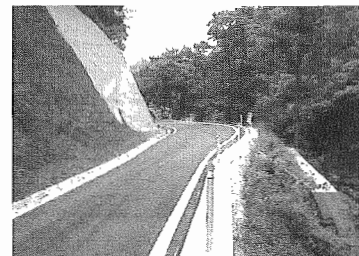
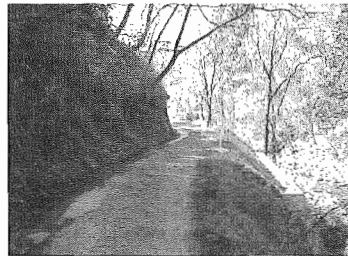
### ◎中山間地域などにおける日常生活に密着した道路整備

中山間地域などにおける比較的交通量の少ない路線に対しては、岡山県独自の道づくり基準「おかやまスタンダード」に基づき、地形や交通量など地域の実情にあわせ、1.5車線改良など2車線整備にこだわらない効率的・効果的な道路整備を進めており、県道大野部東城線(新見市哲西町大野部)等を整備した。

#### <協働の成果>

地元関係者と、きめ細かい協議を行うなど、コミュニケーションの強化に努めたことにより、円滑に事業が推進された。

#### [ 県道大野部東城線での整備状況 ]



整備前

整備後

#### (参考数値)

中山間地域などの交通難所を解消した延長の累計(km)	H18	H19	増減
	87	111	+24



### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### ◎水島港の機能強化

水島港の背後圏の発展に伴う物流需要の増大、コンテナ化の進展などの物流機能の、より一層の強化・充実、地域産業の高度化、活性化の促進を図るために、玉島ハーバーアイランドの整備を進めている。

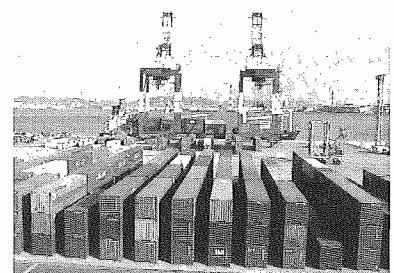
特に、増加するコンテナの取扱量に対応するため、国際コンテナターミナル(水深10m岸壁<2バース>、ガントリークレーン2基)を整備するとともに、中四国地方で唯一の大型X線検査装置を備えた神戸税関水島コンテナ検査センターが平成18年から運用開始され、検査時間が大幅に短縮された。さらに、物流の効率化を図るため、平成19~20年度において、コンテナ荷さばき施設を整備中である。

#### <協働の成果>

岡山県、倉敷市、製造業、貿易、港運等の関係者で構成する「水島港インターナショナルトレード協議会」が、官民一体のポートセールスに取り組んでいる。



上海でのポートセールス



水島港の国際コンテナターミナル

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○地域の実情に応じた道路整備

整備が急がれる日常生活に密着した路線の未改良区間について、中山間地域等の地形的な制約に対応した岡山県独自の道づくり基準「おかやまスタンダード」に基づき、さらなる効率的・効果的な道路整備に努める。

#### ○物流拠点機能の早期整備

新高梁川橋梁や玉島ハーバーアイランド水深12m岸壁等の早期完成に向けて、県としても最大限の協力を行う。

### 5 総合評価

<p>「夢づくり協働指標」については、目標に向けて概ね順調な進捗状況である。</p> <p>道路、港湾等の交通・物流基盤整備などの重点施策を計画的、重点的に行うことにより、地域経済の活性化や県民生活の利便性向上につながっている。</p>	プログラム達成レベル				
	H19	H20	H21	H22	H23
	3				
	<p>5 目標水準を大きく上回った</p> <p>4 目標水準を上回った</p> <p>3 概ね目標水準</p> <p>2 目標水準を下回った</p> <p>1 目標水準を大きく下回った</p>				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	308
担当部局	企画振興部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	ユビキタス実感プログラム
プログラムの概要	教育や医療・福祉、産業等、生活のあらゆる面でITの利活用が定着し、誰もが意識することなく自在にITを使いこなしているユビキタス社会の実現を目指して、次代を見据えたネットワークの高度利用を推進します。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
高画質な映像の送受信を可能とする無線スポット数	スポット	185	600	242						
(指標の説明)民間施設及び県施設、公民館、図書館等公共施設への設置によりおよそ400スポットの増加を目指すもの										
ICカード(非接触型)が利用できるスポット数	スポット	250	800	2,457						
(指標の説明)装置にかざすだけで簡単に利用することができるICカードなどが利用できるスポットのこと										

## 3 代表的な取組(I)

### 「新たなネットワーク構想の推進」

誰もが、いつでも、どこでも、インターネットを利用できるユビキタス・ネットワーク環境の創出のため次の取組を行った。

- ・外出先でも気軽にインターネットが利用できる無線LANを公共施設6カ所へ設置した。  
【無線LAN設置箇所】 県庁、県立図書館、岡山空港、コンベックス岡山、天神山文化プラザ、生涯学習センター
- ・ブロードバンド・ゼロ地域の解消に市町村と連携して取り組んだ。
- ・無線LANよりも広い範囲でネットワーク環境が創出できるBWA(高速無線アクセス)の実証実験を国と協力して赤磐市で行った。

市町村との協働により、ブロードバンド世帯カバー率が前年比4.0ポイント増の98.1%(20年3月末現在)となり、ブロードバンド世帯普及率では、中四国地方で最初に50%を超えた(19年12月末現在51.1%)。

### (協働の成果)

公共施設での無線LANサービスを開始し、広く県民に利用されている。また民間との協働による無線スポット数も増加傾向であり、ユビキタス・ネットワーク環境が形成されつつある。

### (参考数値)

	H18	H19	増減
ブロードバンドカバー率	94.1%	98.1%	4.0ポイント
	H18	H19	増減
ブロードバンド普及率	45.9%	51.1%	5.2ポイント



無線LANスポットでの利用例

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 「オンライン行政サービスの利用促進等」

誰もが、いつでも、どこでも、インターネットを利用できるユビキタス・ネットワーク社会を実感してもらうため次の取組を行った。

・地域コミュニティ機能の活性化と地域に根ざしたITの利活用の促進を図るモデル事業として、新見市での防災デジタルマップや地震波検知システムの整備と、矢掛町での高齢者の見守りシステムの整備に対し支援を行った。

・電子申請システムで利用可能な手続を、常設のものでは801件に、イベントや講座の申し込みなど臨時的なものでは245件へと拡大した。こうした電子申請の対象手続の拡大により、19年度の利用件数は13,796件と大幅に増加した。

#### (協働の成果)

バス・JRの運賃の支払いや、取扱店舗での支払いに使用できるICカードを用いた電子マネーのスポット数は急速に増加しており、すでに目標値を上回った。

市町村との協働により、地域に根ざしたIT利活用を促進することで、ユビキタス・ネットワーク社会を県民に実感してもらうことができた。



電子申請のホームページ

#### (参考数値)

電子申請利用 件数	H18	H19	増減
	8,338	13,796	5,458

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○中山間地域等のIT基盤の整備

ブロードバンド世帯カバー率は98.1%(20年3月末現在)となっているが、ブロードバンド・ゼロ地域の解消のための取組を継続する。残る地域は中山間地域が多く、従来の有線方式での整備は困難であるため、無線等の活用も検討する。

#### ○電子申請の普及

電子申請の利用拡大に向け、申請に係る手数料等のクレジットカード払いができるようにしたり、代理人による申請を認めるなど、システム機能の充実を図り、さらなる利便性の向上を行う。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況であるが、無線スポット数は県の公衆無線LANサービスの開始などにより順調に推移しており、今後は市町村、民間による整備が望まれる。なお、ICカードのスポット数に至っては既に目標を上回った。  
また電子申請の利用件数は、対前年比1.7倍と大幅に増加し、ブロードバンド世帯普及率は中四国地方で最初に50%を突破するなど、ユビキタス社会の実現を目指した取組の成果が着実に上がっている。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					
5	目標水準を大きく上回った				
4	目標水準を上回った				
3	概ね目標水準				
2	目標水準を下回った				
1	目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	309
担当部局	企画振興部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	まち・むら活性化プログラム
プログラムの概要	中山間地域の活力ある発展を図るため、地域の個性や特色を生かした主体的・自立的取組や都市との交流促進を支援します。また、魅力ある街づくりに向けて、中心市街地活性化の支援、賑わい拠点の整備、快適な歩行者用空間の形成等を推進します。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考
				H19	H20	H21	H22	H23	
まちやむらの活性化に取り組んでいる団体数	団体	202	260	231					
(指標の説明) 地域で自主的・主体的に活動する地域づくり団体の増加を目指すもの									
農山漁村交流施設の利用者数	万人/年	128	140	139					
(指標の説明) 農山漁村地域の発展、活性化のために参考となる都市と農山漁村の相互交流の促進度合いを示すもの									
宇野港寄港客船乗客数	人/年	600	4,400	4,167					
(指標の説明) 客船の寄港地として、宇野港を利用する客船の乗客人数の増加を目指すもの									

## 3 代表的な取組(I)

### 「中山間地域の活性化」

#### ●市町村との連携

県と中山間地域市町村による連携協議会において、「集落機能の維持・強化」及び「交流・定住の促進」をテーマに、情報交換や課題解決に向けた検討を行った。

#### ●地域の実情に応じた取組支援

魅力的なふるさとを創出するための個性的な市町村の取組を支援する「中山間“地域力”向上推進事業」を実施するなど、地域の実情に応じた中山間地域対策を推進した。

#### [事例]

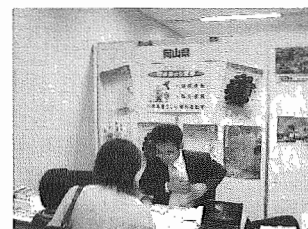
「懐かしの学校再興事業」-中山間“地域力”向上推進事業で支援-  
国の重要文化財に指定されている遷喬尋常小学校は、真庭市のシンボリックな存在であり、補修を行い、文化と観光の拠点施設として位置づけ、民間と協働で昔懐かしい給食や歌を楽しむイベント「なつかしの木造校舎遷喬物語」の開催や講座を開催することにより、観光振興につなげ、地域のコミュニティの活性化を図った。



昔懐かしい給食体験

#### ●交流・定住の促進

東京・大阪での「ふるさと回帰フェア」(交流・定住に関する全国最大規模のイベント)へ出展したほか、県及び県下全市町村に交流・定住相談窓口の設置、田舎暮らし情報の発信のためのホームページ「おかやま田舎暮らし情報ネット」の内容の充実などにより、交流・定住の促進を図った。



ふるさと回帰フェアでの相談の様子

#### 〈協働の成果〉

それぞれの地域資源を生かし、魅力的なふるさとを創出するため、地域づくり団体や地域住民、市町村等が連携して取り組んだ。

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 「地域づくり団体の交流促進」

##### ●地域づくり団体全県交流会の開催

高梁市で地域の歴史と文化の情報発信をテーマとして地域づくり団体全県交流会を開催し、東京大学の西村教授による「世界遺産と地域遺産」をテーマとした基調講演と、歴史、文化、交流をテーマとした分科会での参加団体の事例発表や活発な意見交換が行われた。



基調講演の様子

##### ●地域づくりポータルサイト「晴れの国づくりNET」の開設

地域づくり団体が活動状況や開催するイベント情報の発信ができるポータルサイトを開設し、同様の地域づくり活動を行っている団体の情報交換やこれまで交流のなかった団体間での連携した活動の促進を図っている。

##### 〈協働の成果〉

地域づくり団体の全県交流会は、従来から開催地の複数の地域づくり団体が企画運営し、県がサポートする形で実施した。

また、「晴れの国づくりNET」は県内団体へのアンケートや主要な団体に対するヒアリング調査を実施し、県と地域づくり団体が緊密な連携のもとでサイトを構築した。

##### (参考数値)

	H18	H19	増減
地域づくり団体数	206	231	25

### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○中山間地域の活性化

過疎化の著しい中山間地域では、集落機能が低下し、単独での地域運営が困難な集落が現れており、小学校区、大字等の広域での地域運営への移行を図り、地域全体で支え合う仕組みを実現する必要がある。

#### ○中心市街地の活性化

中心市街地の空洞化に対し都市の賑わいが増加し魅力ある街になるよう取り組んでいく。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の達成状況はほぼ順調であり、目標達成が十分見込まれる水準と考えられる。

さらに、中山間地域の活性化を図るため、市町村における取組を強力に支援する必要がある。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
3					
	5 目標水準を大きく上回った 4 目標水準を上回った 3 概ね目標水準 2 目標水準を下回った 1 目標水準を大きく下回った				

# 夢づくり政策評価シート

整理番号	310
担当部局	企画振興部

## 1 施策の概要

基本戦略	「産業と交流の岡山」の創造
戦略プログラム	国際化プログラム
プログラムの概要	多様な主体による本県の特性を生かした国際貢献や様々な分野の国際交流の取組を支援するとともに、在住外国人が安心して暮らし、いきいきと活躍できる社会づくりを進めます。また、県内企業の海外事業展開の支援など経済国際化を推進します。

## 2 夢づくり協働指標の進捗(達成)状況

指標名	単位	現況値	目標値	実績値					備考	
				H19	H20	H21	H22	H23		
地域共生サポーターの数	人	0	120	78						
(指標の説明) 地域と在住外国人とのパイプ役となるボランティアの育成を目指すもの										
国際救援物資備蓄事業参加者・団体数	人・団体	927	1,520	1,113						
(指標の説明) 広く県民等の協力を得て救援物資の備蓄を行うもの										
貿易額	億円/年	23,134	31,600	35,244						
(指標の説明) 海外との経済活動の活発化を目指すもの										

## 3 代表的な取組(Ⅰ)

### 「国際救援活動の推進」

平成19年8月のペルー沖地震に際して、救援物資(シュラフ、貯水用タンク)を公設国際貢献大学校が設置したももたろう国際救援隊を通じて被災地ペルーに提供した。また、同年7月の新潟県中越沖地震に際しても、新潟県に土のう袋を提供した。

### <協働の成果>

救援物資は、県自ら購入するとともに、県民等からも寄付を受けて救援物資備蓄センターに備蓄し、海外で大規模な災害等が発生した際には国際貢献活動を行う県内NGO等を通じて、被災地に提供している。特にペルー沖地震に際しては公設国際貢献大学校が設置したももたろう国際救援隊と連携し、被災地にシュラフ170枚、貯水用タンク100個を提供した。

### (参考数値)

	H18	H19	増減
国際救援物資備蓄事業参加者・団体数	935	1113	178
	人・団体	人・団体	人・団体



救援物資提供の様子

### 3 代表的な取組(Ⅱ)

#### 「海外ビジネス展開の支援(海外ビジネスサポートデスクによる支援)」

県内企業の海外進出をはじめ、販路や取引先の開拓・拡大などのグローバルな事業展開を現地で支援するため、平成20年2月に中国・大連市及びベトナム・ハノイ市に「岡山県海外ビジネスサポートデスク」を設置した。

#### <協働の成果>

現地のビジネス事情に精通するとともに、豊富なノウハウとネットワークを有する現地企業・団体にサポート業務を委託し、民間の感覚を活かしたタイムリーできめ細やかな支援を行った。

#### ※サポートデスクの主な業務

##### (1) 県内企業等支援業務

現地での事業展開に関するアドバイス、商談先企業の紹介やアポイントメントの手配、視察先への同行や現地事情のレクチャー、見本市・商談会の出展支援、現地情報の収集・提供など

##### (2) 県施策支援業務

毎月の現地レポート作成や現地のビジネス情報等の収集・提供、経済ミッションの受入など

#### (参考数値)

ビジネスサポートデスクへの相談件数	H18	H19	増減
	—	11	11



### 4 取り組むべき課題と対応方針

#### ○ 世界に開かれた国際活動の推進

国際交流・国際貢献活動に対する県民の理解と参加が広まりつつあるが、さらに理解の促進と参加のすそ野を広げるため、岡山発国際貢献推進協議会などとの協働により、県民・NGO等との連携を一層進めていく。

#### ○ 経済のグローバル化への対応

経済のグローバル化が進展する中、多くの県内企業が国際的な事業展開を積極的に進めており、こうした動向やニーズを十分に把握した上で、関係機関と連携を図りながら、タイムリーできめ細やかな支援を行っていく。また、県産農林水産物の海外輸出の拡大等に努めていく。

### 5 総合評価

夢づくり協働指標の進捗状況は、いずれも目標値に対して順調に推移している。

岡山発の国際貢献活動として、NGO等との協働による開発途上地域の自立支援や災害の際の物資提供を行っている。また、地域共生サポーターの育成、ポータルサイトでの多言語による情報発信により、在住外国人が暮らしやすい環境の整備に努めている。

経済のグローバル化への対応として、中国大連市をはじめとした投資有望国・地域にターゲットを絞ったネットワークづくりを進めるとともに、海外企業との商談会の開催など具体的な成果につながる事業を実施することにより、県内企業の国際的な事業展開を積極的に支援している。

#### プログラム達成レベル

	H19	H20	H21	H22	H23
4					

- 5 目標水準を大きく上回った
- 4 目標水準を上回った
- 3 概ね目標水準
- 2 目標水準を下回った
- 1 目標水準を大きく下回った